

ナル事業ニ在テハ損失ヲ招クノ基タリ宜シク戒ムベシ

第一節

農場ノ取得

Der Erwerb Des Landgutes.

贈受若シクハ受托ノ外農場ヲ取得スルノ法ハ相續及ビ購賣ニアリ其

何ノ途ニ出ヅルヲ問ハズ之ガ授受ヲ確證スルノ必要アリ否ザレハ

事業ノ經營ニ當リ常ニ不確心アルヲ免レズ

以上諸法ノ内尤モ普通ナル授受ノ法ハ賣買トス而シテ此途ニ依リテ

取得スル時ハ殊ニ契約ヲ確定スルヲ可トス今左ニ賣買契約ノ條項

ノ要項ヲ示サン

一、農場及ビ之カ附屬財産農舍ノ如キノ詳記

農場ハ必ズ授受ノ際良ク丈量シテ他日ノ紛議ヲ避ケザルベカラズ殊

ニ其限界ノ如キハ必ズ隣接地主ニ立會ヲ請ヒ踏査セザルベカラズ

一、農場附帶ノ權利義務ノ確定

本邦ニ於テハ農場附帶ノ權利ノ存在ハ稀ナレモ尙ホ其存スル場合ニ

於テハ其地ノ市町村長ノ證明ヲ求ムヘシ

農場ノ義務ハ概テ市町村ヨリ賦課スルモノナレバ誤謬アルコト稀ナリ

ト雖モ尙ホ賦課ノ標準タル地價ノ如キハ必ズ土地臺帳ノ謄寫ヲ以

テ證明セシムル方可リ

一、農場附帶ノ各種ノ資本ハ必ズ財産調書ヲ以テ證明セシムルヲ

可トス

一、賣買價格 代價拂渡期限、拂渡猶豫金額ニ對スル金利及ヒ内金

金額ハ必ズ明細ニ記入セシメサルヘカラス

一、農場ノ受渡シ期日

以上ノ契約ヲ締結スルニハ必ズ法定額ノ證券印紙ヲ用ヒサルヘカラ

ス否サレハ此契約ハ裁判上其効力ナシトス如キ契約ハ成ルハク

公證人ノ手ニ於テ之ヲ調理セシメサレハ時ニ不測ノ災ニ遇フコト

アリ

想フニ土地ノ購買ニ注入セル資金ハ他ノ事業ニ放下セル資金ニ比スレハ其利低キモノニシテ之ヲ鞏固ナル政府公債ノ買收ノ如キニ費セル金ニ比スレハ稍々冒險的性質ヲ帶ブルモノナルニ關ハラス尙ホ幾多ノ土地買收者アルハ蓋シ土地所有ノ幾多ノ他ノ事業ニ比スレハ安全ナルト加フルニ貨幣ノ購買力ノ下落ト交通ノ開通トニ伴ナヒ將來漸ク土地價格ノ騰貴スルコトアルヲ豫期セルニ外ナラサルヘシ

然レ此等ノ土地買收者ノ過半ハ本篇第一章第二節ニ於テ農場ノ社會的狀態ニ於ケル關係ヲ論述セルノ際ニ述ヘタルカ如ク多クハ自ラ其土地ニ於テ農業ヲ營マサルノ種族タルハ憂フヘキノ至リナリトス

土地ノ賣買價格

土地ノ賣買價格ハ主トシテ需要供給ノ經濟的原理ノ支配ヲ受クルモノナリト雖田尙ホ左ノ諸項ハ之ニ著シキ關係ヲ及ホスモノトス

農場ノ設定

- 一、買收者ノ念慮及ヒ嗜好
- 一、買收者ノ農業上ノ知識及ヒ其資産ノ多少
- 一、農産物ノ市價
- 一、労働者ヲ得ルノ難易
- 一、農藝工業ノ盛衰
- 一、交通ノ便否
- 一、國家的保護事業整否

第二節 農場ノ設定

Die Grundung Des Landgutes.

農場ノ設定ハ概テ山林、原野、濕地等ノ開墾ノ場合ニ起ルモノナルカ故ニ必ス先ツ多少ノ土地改良事業ヲ施行セサルヘカラサルモノトス其他農場ノ設定ハ農地ヲ合併分裂シテ新タニ農場ヲ設クルカ或ハ土地整理ノ際ニ於テ行フアレ本邦ニ於テハ斯カル場合尠シトス土地開墾ハ割合ニ多額ノ資本ヲ要スルモノナレハ必ス先ツ其成否ヲ

開土墾地

農場ノ設定

熟考シ設計ニ誤リナキヲ期スベシ其成否ヲ判定スルニハ主トシテ左ノ六項ヲ參照シ尙ホ經驗アルモノニ尋テ之ト熟議スヘシ

- 一、市場、販路、交通ノ現況及ヒ其將來ニ於ケル見込
- 一、附近耕地ト將ニ開墾セントスル土地ノ價格ノ比較
- 一、氣候及ヒ土質並ニ用水(土地要素ニ係ル觀察)
- 一、農業經營ニ必要ナル勞力ヲ得ルノ難易、最モ得易キ勞力、勞働賃

金(勞力要素ニ係ル觀察)

- 一、資本ノ需給、地方金融ノ狀態、金利ノ多寡(資本要素ニ係ル觀察)
- 一、開墾成功見積期限即チ土地、勞力及ヒ資本ナル三要素カ充分其効力ヲ現ハシ報酬ヲ生スルニ至ル迄ノ期限(所謂墾下年期)

總シテ氣候愈々不良ニシテ且ツ自然的な力愈々薄弱ナルハ地益ヲ生スルコト愈々少ナカルヘキハ勿論ナリ而シテ斯カル土地要素ヲシテ相當ノ收益ヲ生セシメント欲セハ比較的少量ノ勞力及ヒ資本ヲ

費シ加之成効期限ハ割合ニ長キヲ要スルモノナリトス斯クノ如キ土地ニ於テハ勞力ト資本トハ成効期限ヲ短縮スルノ効少ナシ豊カナル資本ト多量ノ勞力ヲ費シテ成効期限ヲ短縮シ得ヘキ場合ハ獨リ善良ナル土地要素ノ存スルトキニ限ル然レモ斯ク多クノ資本ト勞力トヲ費スハ寧ロ不經濟タルヲ免レサルコト多シ宜シク漸ヲ以テ成効ヲ期シ其機ノ熟スルヲ待ツ方遙ニ一時ニ資本ヲ放下スルニ優ルコトアリ

農場設定ニ當リ多額ノ資金ヲ要スルハ土地改良ト建物建設ノ二者トス土地改良ノ爲メニ放下セル資金ハ若シ設計ニ誤リナキハ生産的消費ナルカ故ニ他日ニ其利ヲ見ルヲ得ヘキモ建物即チ農舍、道路、橋梁、井泉等ノ爲メニ放下セル資金ハ單ニ生産ヲ幫助スルノ作用ヲナスニ止マリ直接生産ニ關ラサルノ性質ヲ有スル者ナルカ故ニ往々徒費ニ屬シ地益ヲ縮少セシムルコトアリ深ク戒ムヘシ

本邦土地開墾ニ方リテハ若シ開成地ヲ小作セシムルノ方針ニ出テン
ト欲セハ用水ヲ引キ田地ヲ設定スルヲ可ナリトス斯クノ如キ土地
改良ハ極メテ多額ノ資本ヲ要スルモノナレバ最モ利アルモノ、如
シ用水引通ニ係ル土地改良、大事業ノ良ク成效シテ大利ヲ生セシ例
ハ伊太利ニ多シ

第三節 農場主 Der Gutsbesitzer.

農場ノ取得及ヒ其設定ハ前二節ニ於テ之カ要路ヲ示セリ今ヤ進ンテ
此等ノ農場ニ於テ農業ヲ經營スル者即チ農場主ナル者ノ種類ヲ講
述セント欲ス

農場主ノ別

農場主ヲ別テ四トス即チ
一、自作農 二、小作農 三、管理農 四、分益農
其一其二ハ本邦ニ普通ナリ而シテ其三ハ稀ニ明治時代ノ新開墾地ニ
之ヲ見其四ハ極メテ小局部ニ於テ或ハ之ヲ見ルヲ得ヘシ

自作農

一、自作農 Der Selbstwirtschaftende Besiber.

自作農ハ各種ノ農場主中最モ多ク純益ヲ收ムベキ性質ノモノタルハ
通篇農業ノ所得ニ於テ之ヲ論ゼリ然リト雖本邦ニ於ケルガ如ク
漸ク普通以下ノ労働報酬ヲ收ムルヲ以テ足レリトスル農民ノ多數
ヲ占ムルノ國ニ於テハ小規模ノ自作農即チ農業ノ所得ト自己ノ筋
力的労働賃トヲ併セ收ムルノ農業者ニ非ザレバ收支相償ハザルベ
シ
斯カル小規模ノ自作農ニシテ他ノ各種ノ農場主ニ比シテ尙ホ其收益
少ナキ場合ニ於テハ蓋シ其農業者ノ或ハ營業資本ニ不足アルカ或
ハ知識、熟練、勤勉ニ欠クル處アルニ基因スルモノト断定スルヲ得ベ
シ而シテ此等ノ諸因ノ内其最モ本邦自作農間ニ目撃スルヲ多キハ
營業資本ノ不足ナリトス

自作農ハ決シ

自作農ハ其所有地ヲ書入質入ニ供シ金融ヲ圖ルノ途アリト雖厄斯ク

自作農

借得セル資金ニ對シテ支出セザルベカラザル金利ハ概ネ此資金ヲ
 營業上ニ使用シテ收メ得ベキ收利ニ比スレバ遙ニ多キヲ常トスル
 ガ故ニ着實ナル自作農ハ決シテ自己ノ所有地ヲ以テ金融ヲ圖ルベ
 カラズ本邦ニ於ケル土地抵當金融ノ現状ハ若シ其所得ヲ單ニ土地
 ノミニ依頼スルノ自作農ニ在テハ概テ其所有地ヲ失フニ終ルモノ
 トス豈歎ズベキノ至ナラズヤ
 本邦自作農救護ノ最急要務ハ低利ナル信用金融ニアリ、
 而シテ之ヲ行フノ途ハ或ハ彼普國ニ存セル「テンドシヤフト」制ノ金融
 組合若シクハ「ライプアイゼン」制ノ信用組合ノ外他ナシ
 例令低利金融ノ途開ケタリトスルモ尙ホ之ヲ利用スルニ方リテハ宜
 シク收支相償フヤ否ヤヲ精思スルヲ要ス本邦ノ如キ物品經濟時代
 ヨリ急激ニ貨幣經濟ノ時代ニ變遷セル地ノ農民ニ對シテハ殊ニ資
 本放下ヲ忽諸ニ附スヘカラサルノ理ヲ曉ラシムルコト緊要ナリ、

二、小作農 Der Pächter.

自ラ農業ヲ營ムヲ好マサルノ地主ハ土地ヲ第三者ニ貸與シ一定ノ借
 地料ヲ收ムルコトアリ斯ル借地人ヲ小作農ト稱ス此場合ニ於テハ
 地主ト小作農トハ協同シテ同一農場ニ對シ收益ヲ圖ルモノニシテ
 即チ前者ハ農場ノ所有權ニ對シテ自己ノ收ムヘキ所得ヲ收メ後者
 ハ之カ利益權ニ對スル一部ノ所得ヲ收ム
 各種ノ小作法其慣例及ヒ其利害ヲ詳説スルハ主トシテ國家的農業經
 濟學ノ範圍ニ屬ス故ニ茲ニ之ヲ省略シ單ニ農業經營ニ關係アル小
 作契約締結法ニ就テ述フル所アルヘシ

イ、借地ノ方法

小作農ヲ營ムニ當リ土地ヲ借入ルノ方法ニ三種アリ即チ
 一、特借法 此法ニ據ルトハ土地ハ貸主即チ地主ノ任意ニテ借主即
 チ小作農ニ貸シ渡スモノトス即チ借地契約及借地料ノ如キハ貸

借兩者ノ合意ニヨリ之ヲ定ム、本邦ニ於ケル借地法ハ此種ヲ多シトス

二、人撰公借法 此法ニ據ルキハ地主ハ先ツ小作契約ヲ公示シ借地請求人ニ入札セシメ後チ豫メ定メタル期日ニ於テ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ開封シ小作料ノ高下ニ關セス地主ニ於テ是モ自己ノ意ニ適セルモノニ借地セシム

三、公借法 此法ニ於テハ地主ハ豫メ小作契約ヲ示シ豫定ノ期日ニ至リ借地申込入札ヲ開封シ最多額ノ小作料ヲ約セルモノニ借地ヲ許ス官有農場ノ借地ノ如キハ概ネ會計法ノ制裁ヲ受クルガ故ニ此法ニ據ラザルヲ得ズ

要スルニ農場公借ノ普及ハ農業者間徳義心ノ欠乏ト相伴フモノナルガ故ニ本邦ノ如キニ於テハ成ルベク第一法ニ據リ土地ノ貸借ヲ行フノ習慣ヲ失ハザラシメザルヲ要ス然レモ時勢ノ變遷ハ遂ニ公借

法ノ必要ヲ生ズルニ至ルベシ

總シテ小作契約期限ノ短カキハ貸借兩者ノ不利タルヲ免レズ即チ契約滿期ニ近キ小作農ハ成ルベク自己ノ放下セル資本ノ收縮ヲ圖ルガ故ニ酷ク地力ヲ利用スルノ傾向アルモノナリ而シテ其結果タル貸者ハ其所有地ヲ害ハレ借者ハ其放下セル資本ニ對シ充分ナル利用ヲ圖ルヲ得ザルニ至ル

各種ノ借地法中最モ其土地ヲ害フコト少ナキハ特借法トス若シ止ムヲ得ザレハ人撰公借法ノ方普通公借法ニ比スレバ此弊少ナシ蓋シ從來ノ借地人ハ最モ良ク自己ノ耕作シツ、アリシ土地ヲ知ルモノナルガ故ニ若シ不正ノ意想ナキ時ハ其地ニ對シ最モ恰當ナル借地料ヲ入札スルヲ得ベケレハナリ

ロ、小作契約

小作契約ハ土地賣買ノ契約ニ比スレバ複雑ナラサルヘカラザルモノ

ナレモ本邦ニ於ケルモノハ概テ簡單ナリ
 歐洲ニ於ケル小作契約ハ極メテ複雑ナレモ亦完美ナリ想フニ貸借両
 者間ニ德義心薄ク唯一遍ノ事理ノミノ支配ヲ受クル場合ニ於テハ
 完全ナル契約ヲ締結スルニ非レハ貸借両者トモニ自己ノ利益ヲ保
 護スル能ハサルニ由ルナル可シ蓋シ小作貸借ナルモノハ時期ヲ限
 リテ同一農場ニ對シ兩者ニ於テ收益權ヲ共有スルモノナレバ後來
 ノ紛議ヲ防ガント欲セバ勢ヒ各種ノ條件ヲ制定セザルベカラザレ
 バナリ

小作契約ハ成ルベク後日ノ紛議ヲ防クガ爲メニ必要ナル事項ヲ詳記
 シ置クヲ要ス今其主ナルモノヲ示スコト左ノ如シ

小作ノ
目的物

- (一) 小作ノ目的物トハ小作人ニ於テ收益權ノ交付ヲ
 受クベキ物件ヲ云フ即チ之レヲ類別スレバ
- イ、農地、其面積及ビ地目

農地利
用法ノ
制限

ロ、農場附帶ノ資本即チ各種ノ建物、立木、器具、貯材、家畜、權利等尙
 ホ非借物件地主ノ住居菜園等アラハ亦之ヲ詳記スルヲ要ス
 本邦ニ於ケル小作ノ目的物ハ大概農地ノミニシテ立木等ノアル
 ハ稀ナルカ故ニ歐洲ニ比スレハ本項ノ記事ハ著ルシク簡單ナリ
 殊ニ本邦慣行小作契約ニ於テハ單ニ農地ノ面積ノミヲ掲クルニ
 止マルヲヤ

(二) 農地利用法ノ制限 農地地目ノ變換、及小作、立毛ノ販賣、特種農作
 物種、面積ノ制限、葉ノ販賣、一反步施用肥料ノ最少限、輪栽法ノ變
 換、石灰施用ノ制限等ニ係ル事項ハ歐洲小作契約中ニ規定スルモ
 ノ多シ此等ノ事項ノ内本邦ニ於テハ時ニ又小作及ヒ石灰ノ禁止
 ヲ掲クルモノアレモ其他ノ事項ニ就テハ悉ク地方ノ慣行ニ一任
 シ別ニ契約中ニ明文ヲ置クモノナシ故ニ近時ニ於テハ小作人ニ
 於テ漫ニ石灰ヲ施シ土地ヲ耗瘠セシムルノ惡習慣ヲ生セリ此等

ノ行爲ハ他日漸ク小作契約ヲ嚴ナラシムルノ原因トナルヘシ

(三)小作期限 小作期限ノ長短ハ土地改良ノ行否及ヒ農舍保存ノ期限ニ大ナル關係ヲ有スルヤ明ナリ蓋シ短期限ノ小作農ハ永期ニ償却ヲ受クヘキ土地改良ヲ行フモ其効力ヲ利用シ盡ス能ハサルヲ以テ之ニ資本ヲ放下スルノ念慮ナシ殊ニ公借借地法ヲ行フカ如キハ更ニ然リトス此弊害ヲ避クルカ爲メニ歐洲ニ於テハ小作期限ハ通例輪裁順次一週期年ノ二倍若シクハ三倍ト定ム今假リニ八年循環ノ輪裁法ニ依ルノ農法ノ地方普通ナルハ之レカ二倍即チ十六年乃至之レカ三倍即チ二十四年ヲ以テ小作期限トナスカ如シ

斯ク小作期限ヲ永ク定ムルハ貸借兩者ニ取リテ一利アリト雖亦一害ノ之ニ伴フアルヲ免レス即チ交通ノ開通、農産物價格ノ騰貴等ノ如キ原因ヨリシテ地方小作料ノ騰貴スルヲアルモ貸者

ハ之レカ利ヲ收ムル能ハサルナリ之レカ反對ノ場合ニ於テハ借者ハ其不利ヲ被ムルヲ免レズ

(四)小作料ノ種類其納期及ヒ其額 是亦契約中ニ定メサルヘカラス此條項ハ本邦ノ契約中ニモ必ス之レヲ掲ク本邦ノ小作料ノ種類ハ或ハ物品納アリ或ハ金納アリ前者ハ田地ニ多ク後者ハ畑地及ヒ園地ニ多シ物品納ハ概テ米若シクハ麥トス而シテ田地ハ概テ米納ニシテ畑地ニハ米納ノモノアリ麥納ノモノアリ其納期ハ概テ收穫後トス歐洲ニ於テハ小作料ヲ前納セシムルノ例アリト雖本邦ニ於テハ極メテ稀ナリ蓋シ物品納ノ慣例タルニヨルナラシ

(五)小作料ノ免除若シクハ減額ニ係ル條件 小作料ノ免除若シクハ減額ハ凶歳若クハ不時ノ天災ノ際之ヲナスコトアリト雖本邦ノ小作契約ニ記載セスシテ地方ノ慣行ニヨレハ概テ地主ノ好意ニ出ツ

小作契約

元百九十四

ルコト多シ歐洲ニ於テモ亦然リ本邦ニ於テハ不作ニ際シテ種粃
又人夫ノ食米ヲ貸與スルコトアリ是レ亦小作契約ニ記載セサル
ヲ常トス

(六)保證 本邦ニ於テハ證人ヲシテ小作契約ニ連署セシメ小作者ニ
於テ其義務ヲ果サルハ代償セシムルヲ常トス歐洲ニ於テハ
保證金ヲ納メシムルコトアリ

(七)解約通知期及ヒ契約繼續ニ係ル條件 本邦小作契約書中ニハ小
作人ニ於テ不都合ノ所爲アルハ何時解約相成候トモ故障申聞
敷等ノ文字ヲ挿入スルノミニテ地主ハ概テ契約ヲ默諾繼續セシ
ムルノ慣習アリ本項ノ如キニ對シテハ別ニ確タル條項ヲ設ケサ
ルヲ常トス

(八)建物修繕及ヒ新築ニ係ル條件 本邦小作地ハ概テ農地ノミニシ
テ例令建物アリト雖モ粗造ナル肥料舍ノ類ニ過キサレハ小作契

約中ニハ之ヲ特記セサル位ノモノナリ從テ之カ修繕及ヒ新營ノ
如キハ必要ノ場合ニ臨ミ貸借兩者ノ合意ニヨリ處理ス普通ノ習
慣ハ地主ハ原料ヲ供シ小作者ハ勞働ニ就クモノナリ

(九)土地改良ニ係ル條件 土地改良ハ固定資本ノ注入ナルカ故ニ地
主ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ小作農ニ對シ此資本注入ニ係ル増収益
ヲ需ムルヲ得ヘキノ理ナリ然レモ若シ小作期限中ニ土地改良ヲ
行フカ如キニ在リテハ貸借兩者間ノ協議ニ依リ之カ費用ヲ分擔
シ敢テ小作料ヲ增收セサルヲ常トス假令ハ排水ヲ行フ如キニ在
テハ地主ハ通例粗粃ヲ給シ小作人ハ之ヲ埋設シ小作料ハ之ヲ据
置クコト多シ然レモ此等ノ條件ハ當初事業着手ノ際豫メ協議シ
置クヘキヲ可トス

(十)租稅及諸掛リニ關スル條件 農場ニ關スル租稅例令ハ地租、地
租割、公費等ハ當然地主ノ負擔ニ屬スヘキモノナレハ本邦ノ小作

小作契約

元百九十五

契約中ニハ之ヲ掲ケサルヲ常トス

(十二)地主ト小作人トノ個人的關係 本邦ノ小作契約中ニハ此條文ナシト雖モ歐洲ニ於テハ地主ハ小作人ニ於テ若干額ノ資本ヲ農業經營ノ爲メニ放下スヘキヲ約セシメ且ツ之レカ放下ヲ證明セシムルコトアリ又小作人ノ死亡ノ際ノ取扱方等ヲ規定シ又貸借両者間ニ於ケル紛議仲裁ニ係ル條項ノ設ケアルコトアリ要スルニ本邦ニ於テハ此等ノ事項ハ皆地方ノ慣例ニ據リ處理スルカ故ニ別ニ契約書中條項ノ設ケアルコトナシ

三、管理農業

Der Gutsbetrieb Unter Administration.

若シ土地所有者ニシテ自ら農業ヲ營ムヲ欲スルモ尙ホ農場ヲ管理スル能ハサルハ所謂管理者ナルモノヲ置キ經營ノ任ニ當ラシムルコトアリ斯カル農業ハ管理農業ト云ヒ主トシテ貴族豪家等ノ農場若クハ會社組合等ニテ農業ヲ營ム場合ニ於テ多ク之ヲ見ル即チ管

理農業ニ於テハ土地及ヒ資本ヲ第三者タル管理人ニ委託シテ農業ヲ營ムモノトス此場合ニ於テハ管理人ノ職務權能ハ必ス委任條件ニ依リテ之ヲ定ム要スルニ管理農業ナルモノハ自營農業ニ比スレハ收益少ナキヲ常トスルモノニシテ其由ル所左ノ如シ

(一) 農業ヲ經營指揮スル者即チ管理者ハ土地及ヒ資本ノ所有者ニ非サルカ故ニ動モスレハ收益ノ多少ニ利害ヲ感スルコト少ナシ故ニ農場主ハ概チ管理者ニ收益ノ幾分ヲ賞與シ此弊ヲ防カンコトヲ務ムヘシ

(二) 管理者ハ自己ノ設計ニ依リ若シ損失ヲ來スルハ委任ニ背クノ感アルヲ免レサルカ故ニ豫メ利益ヲ確定シ得ルニアラサレハ新ラシキ事業ヲ起サ、ルヲ常トス故ニ農場收益ヲ増進スルコト少ナシ

(三) 適任者ヲ得ルニ難キコト。

(四) 管理者ノ使用スル資本ハ自己ノ有ニアラサルカ故ニ概チ之カ運

轉ヲ制セラル故ニ各種ノ事業殊ニ物品ノ賣買ニ於テ其機ヲ失ス
ルヲ多キヲ

(五)概シテ管理費ノ嵩ムヲ

四、分益農 Metayer.

分益農法ハ歐洲ニ於テハ其起原極メテ古ク羅馬時代ニ於テモ己ニ之
ヲ見ル本邦ニ於ケル起原ハ未タ詳ニスルヲ得サルモ其性質ヨリ見
ルキハ是レ亦往昔ヨリ傳來セルモノ、如シ歐洲ノ分益農法ハ地主
ニ於テ土地及ヒ資本ヲ給與シ且ツ農業經營ノ方法ヲ授ケ分益農者
ハ單ニ勞力ノミヲ施シ共同シテ農事ヲ爲スヲ常トス然ルニ本邦ニ
於テハ地主ハ單ニ土地ヲ授クルノミニシテ分益農者ハ資本ト勞力
トヲ出シ共同シテ農業ヲ營ムモノトス其名稱ハ或ハ地方ニヨリ異
ナルコアルモ通例作り分ケト稱ス而シテ農場ノ收穫物ハ歐洲ニ於
テモ亦本邦ニ於ケルト均シク預メ契約セル歩合ニヨリ地主ト分益

農者トニ分ツ

右ニ説ケル如ク本邦ニ於ケル分益農法ハ其組織歐洲ノモノト異ナリ
テ地主ハ資本ヲ供給セサルカ故ニ單ニ不定額小作料ヲ納ムルノ小
作農タルニ外ナラス想フニ現時ノ状態ニ於テハ若シ地主ニシテ相
應ノ農事知識ヲ有スルコアラハ歐洲式ニ則リタル分益農法ハ貸借
兩者ヲ利スルナルヘシ要スルニ分益農法ニ於テハ收穫額ノ増加ス
レバ、スルホド地主及ヒ分益農者共ニ其利ヲ享クルモノナレハ兩者
共ニ改良ノ精神ヲ發起スルコト少ナシトセス即チ之ヲ歐洲ニ徵スル
ニ地主ハ可成廉價ニ最モ有効ナル肥料ヲ得ンコトヲ勉メ分益農者ハ
可成耕耘ヲ精ニシ其利ニ浴セント欲スルナリ
分益農法ハ夫レ斯ノ如キ利アリト雖モ之カ効アルハ蓋シ地主ト農民
トノ間ニ德義ノ連結アル場合ノミニ限ル此兩者ニシテ互ニ德義ヲ
顧ミス只利是レ欲スルノ場合ニ於テハ決シテ此法ノ成就スルコトナ

シ故ニ其最モ多ク行ハルハ、佛國ニ於テスラ農民ノ質撲ナル地方ニ限ルノミニシテ其地ノ農民ハ佛人ノ氣象ニモ似ス決シテ政治上ハ不穩等ニ關スルコトナク冷眼ニ之ヲ觀過スト云フ

分益農法ハ既ニ其性質ニヨリ明ナル如ク決シテ大農場ニ適スルモノニ非ス最モ良ク分益農法ニ適スル民場ノ大サハ最小自營農場ト相均シ

第二章

農業ノ組織

Die Einrichtung Der Wirtschaft.

新タニ農業ヲ組織スルノ必要ハ既定經營法ノ變更若シクハ農場ノ新設ニ依リテ生ズ而シテ此等ノ事項ハ或ハ農場主ノ變更小作人ノ變換若クハ交通物價勞働賃等ノ變遷開墾等ノ場合ニ起ルモノナリ

農業組織ノ目的トスル處ハ能ク其地方ノ萬般ノ境遇ニ應ジ最少失費ヲ以テ最多收益ヲ期スルニアリ故ニ農業組織ノ如何ハ主トシテ余

物種藝ノ盛衰家畜飼養ノ多少及ビ農藝工業ノ有無ニ關係ヲ有スルモノナリ

農業組織ナルモノハ耕種組織ト相異ナルモノナリト雖本邦ニ於テハ歐洲ニ於ケルカ如ク飼畜盛ナラザルガ故ニ農業組織ト耕種組織ト相均シキコトアリ然レキ彼園地ヲ有スルノ農場ニ於テハ農業組織ハ自ラ耕種組織ト相異ナルモノトス

農業組織ノ變更ハ農場愈大ナルニ從ヒ且ツ從前ノ組織ト相異ナルコト愈著シキニ從ヒ之カ施行ニ困難ヲ感ズルモノニシテ往々暫時ノ間收利ナキコトアリ故ニ組織ノ變更ハ成ルベク急激ニ行ハザルヲ可トス要スルニ組織變更ニハ或ハ多額ノ資本放下ヲ要シ或ハ時日ヲ徒費スルアルヲ免カレズ

組織ノ變更ハ多少農業經營法ヲ粗放ニシ或ハ集約ニスルモノナリ今組織變更ニ伴フ經營法ノ變化ヲ示スコト左ノ如シ

- 一、勞力ノ増課ト營業資本放下ノ増加ハ粗放農法ヲ集約ニ變ズ
- 二、勞力及ビ資本ノ收縮即チ工藝作物又ハ蔬菜等ノ種藝ヲ減少スルガ如キハ集約農法ヲ粗放ニ變ズ
- 三、以上二例ノ中間ニ於ケル變遷モ多少勞力及ビ資本ノ二者若シクハ其一者ニ於テ農法ヲ粗放ナラシメ又集約ナラシム例ヘハ營業資本ヲ据置クモ工藝作物ノ種藝ヲ増加シ又ハ之ヲ減少スルガ如キハ即チ勞力ノ點ニ於テ或ハ農法ヲ集約ナラシメ或ハ之ヲ粗放ナラシム

四、又農藝工業ノ開設若シクハ廢止ハ農業組織ニ影響スル處大ナルコトアリ

第一節

農業組織ノ一部トシテノ作物種藝即チ耕種組

織 *Der Pflanzenbau im Wirtschaftssystem das Acker Bauystem.*

作物種藝ノ業ハ農業ノ最大部分ヲ占ムルモノナルカ故ニ耕種組織ノ

如何ハ以テ農業組織ノ如何ヲ定ムルノ要因タリ而シテ耕種組織ナルモノハ更ニ左ノ三點ノ關係ニ依リ相定マルモノトス

- (一)種藝シ得ヘキ作物ノ撰定 種藝シ得ヘキ作物ヲ撰定セント欲セハ先ツ(イ)其地方ノ自然的境遇即チ主トシテ氣候及ヒ土質ヲ鑑ミ作物ノ適否ヲ考究シ(ロ)此諸作物相次ノ適否ヲ調査シ(ハ)農地ノ狀態及ヒ殊ニ土地ノ熟否ニ照ラシ能ク之ヲ種藝シ得ヘキヤ否ヤヲ考ヘ(ニ)其地方ノ經濟的状況及ヒ交通販路ニ徴シ之ヲ種藝シテ利アルヤ否ヲ熟考スヘシ

以上ノ考究ニ依リ其農場ニ種藝シテ利アルノ作物ヲ撰定シ了ラハ更ニ歩ヲ進メテ

- (二)此作物ヲ栽培スヘキ面積ヲ查定スルヲ要ス而シテ此查定ニ就キ参照スヘキノ要點ハ左ノ如シ

(イ)直接ニ販賣シ得ヘキ農作物ノ種藝面積

- (ロ) 間接ニ販賣シ得ヘキ農作物即チ飼料作物ノ種藝面積
- (ハ) 工藝作物ノ種藝面積

以上二項ニ依リ種藝スヘキ作物ヲ撰定シ且ツ之カ種藝面積ヲ定ムル
トキハ更ニ

(三) 之カ輪栽順次ヲ設定スヘシ

茲ニ於テ始メテ耕種組織ナルモノヲ現出ス

一、作物撰定

一農場ニ於テ種藝シ得ヘキ作物ノ種類ハ氣候及ヒ土質ニヨリ制限セ
ラル、モノナルカ故ニ其限界ノ時ニ廣キコトアリ又狹キコトアリ
要スルニ本邦氣候ニ於テハ作物ノ種藝ハ寧ロ廣キ方ニ屬ス然レモ關
東以北ニ於テハ其限界ハ稍縮少ス想フニ氣候ナルモノハ單ニ農産
物ノ種類及ヒ其收量ニ關係ヲ有スルノミナラス又其品質ヲ左右ス
ルコト大ニシテ從テ之カ價格ニ影響スルモノナリ

抑モ土質ナルモノハ或ル度迄ハ氣候ノ不利ヲ補フモノナレドモ其程
度ハ決シテ大ナラス假令ハ静岡縣ニ於テ甘蔗ヲ栽培シ得ル如キハ
土質ヲ以テ氣候ノ欠ヲ補フノ例トナスヲ得ヘシ故ニ作物ノ撰定ニ
ハ先ツ其地ノ氣候ヲ考フルコト必要ニシテ次ニ土質ヲ調査シ更ニ販
路ノ如何ヲ鑑ミルヘシ又労働者ヲ得ルノ難易ハ作物撰定ノ一要件
タルコトアリ要スルニ作物撰定ノ當ヲ得ルハ極メテ至難ノ業タルヲ
以テ先ツ其地方普通ノ作物ニヨリテ耕種組織ヲ定メ後チ漸次其地
方適生ノモノヲ撰定スルコトヲ勉ムヘシ作物ノ適生如何ヲ視察シ了
ラハ之カ平年收穫額及ヒ平年純收益ノ調査ヲ行フヘシ
平年收穫額ナルモノハ幾年間ニ於ケル收穫額ヲ調査シ其略ホ同シキ
モノヲ合シ之カ平均ヲ取リタル數ニシテ自ラ平均收穫ト相異ナレ
リ即チ平年收穫トハ豊凶何レニモ傾カサル平均ノ收穫ヲ云フモノ
ナリ

平年純收益ナルモノハ以上平年收穫額ノ賣上金ヨリ平年ニ於テ要ス
 ル處ノ生産費ヲ除キ其餘ス處ノ額ヲ云フ故ニ之カ多少ハ農産物ノ
 販路及ヒ之カ市價、勞働者ノ有無、金利ノ高下及ヒ其他地方經濟的狀
 態ニ關スルコト大ナリ
 純收益ナルモノハ生産費ノ比較的節減若シクハ收穫額ノ比較的増加
 ニヨリテ増加スルモノナリ
 想フニ一地方ノ收穫額即チ某地積ニ對スル農産物ノ産額ハ主トシテ
 其地ノ自然的狀態ニ依ルノ外尙ホ其地ノ熟否如何ニ關スルコト大ナ
 リ地ノ熟否ナルモノハ耕耘ノ精粗及ヒ施肥ノ厚薄ノ結果タリ而シ
 テ前者ハ殊ニ土地ノ理學的性質ニ關係ヲ有スルコト大ナルヲ以テ特
 ニ重要ナリトス想フニ淺耕ノ習慣ヲナスノ土地ニ於テハ極メテ多
 額ノ肥料ヲ施スコトナクシテ急激ニ深耕ヲナス時ハ一時ハ著シク
 收穫ヲ減スルモノナリ斯クノ如キノ地ニ於テハ厩肥ヲ得ルニ從ヒ

漸次深耕ニ改ムル様ニナサ、ルヘカラス
 作物ニヨリテハ熟地ニ非サレハ適生セサルモノアリ斯クノ如キ場合
 ニ於テハ前作ニ充分ノ肥料ヲ施シ豫メ土地ヲ熟セシムルヲ可トス
 尙ホ經濟的及ヒ社會的關係ハ作物撰定ノ要因タリ農産物ノ販路、之カ
 市價并ニ金利ノ高下、勞働者ノ多少等ハ宜シク熟考ヲ要ス

二、種藝面積(圃地分配)

先ツ前項ニヨリ種藝シテ利アル作物ヲ撰定セハ更ニ之ヲ種藝スヘキ
 面積ノ概數ヲ定ムヘシ勿論毎年種藝スヘキ面積ノ確定ハ輪栽順次
 ノ確定ト相伴ハサルヘカラサルヤ勿論ナリト雖モ輪栽順次ヲ勘考
 スルニハ必ス略ホ一ケ年ニ種藝スヘキ各種作物ノ面積ヲ豫算セサ
 ルヘカラス

即チ各種作物ヲ先ツ左ノ三類ニ區別スルモノトス

一、直接ニ販賣シ得ヘキ農作物 各種ノ穀、菜種、蔬菜等此部類ニ屬

作飼
物料

作工
物藝

ス此等ノ作物ニヨリ生スル殘屑(藁稈、莖、莖等)ハ通常再ヒ農場ニ還補セラル、モノトス

二、關接ニ利用セラル、農作物即チ飼料作物 本邦農業ニ於テハ家畜ノ飼料ヲ栽ウルコトナキカ故ニ此部類ノ作物ニ付テハ敢テ勘考ヲ要スルコトナシ

三、工藝作物 農家ニ於テ自ラ加工スルノ工藝作物ニ限リ勘考ヲ要ス此部類中本邦ニ於テ重要ナルハ麻、甘蔗等トス地方ニ依リテハ澱粉製造ノ原料トシテ馬鈴薯及ヒ甘藷ヲ栽ウルコトアリ總シテ此部類ニ属スル作物ニアリテハ殘滓ハ悉ク農場ニ殘留スルモノナルカ故ニ礦質物ハ殆ント再ヒ原地ニ還補シ單ニ大氣ヨリ吸収セル有機質物ノミヲ主トシテ農場外ニ輸出スルモノナリ而シテ此部類ノ作物ヲ種藝スルノ利ハ獨リ此礦質物ノ還元ヲ得ルノミナラス又農家ハ之カ加工賃ヲ收ムルノ利アリ故ニ勉メテ之レカ

順輪
次栽

栽培ヲ盛ニスルヲ可トス然レトモ自家勞働ニテ加工シ得ルノ程度ヲ超過シ勞力ヲ他ニ求ムルガ如キコトアルトキハ反テ不經濟ナルモノナリ宜シク戒ムベシ

三、輪栽順次

次ニ査定スベキハ輪栽順次トス各種作物ハ其嗜好ニヨリ各種養素ヲ吸收スルノ割合相異ナルモノニシテ又其根部ノ發育ノ状態ニ應ジ或ハ土壤ノ上層ヨリ或ハ其下層ヨリ養素ヲ吸收ス此ニ於テ淺根作物及ビ深根作物ノ別ヲ生ズ

其土地ノ理學的性質ニヨリ或ハ某作物ノ適生スルアリ或ハ某作物ノ毫モ生育ヲ遂ゲザルコトアリ殊ニ池水ハ作物ニヨリテハ其生育ニ大ナル障害ヲ與フ

同作物ヲ連作スルトキハ養素經濟ニ不利ヲ感ズルノミナラズ亦各種ノ虫害及ビ微害ニ罹リ易キモノナリ故ニ作物ハ成ルベク淺根作物

ト深根作物ト交互相次キ又同作物ハ成ルベク兩三年ヲ隔テ、相次
 グ様ニ栽培スルヲ可トス
 此理ニヨリ作物栽培ノ順次ヲ定メタルモノヲ輪栽順次ト稱ス
 本邦ニ於テハ氣候温和ナルガ故ニ通例冬作ヲ行ヒ概テ大小麥ヲ栽培
 ス故ニ夏作ニハ成ルベク深根作物ヲ栽ウル様ニ順次ヲ正ストキハ
 肥料利用ノ理ニ合フモノナリ然リト雖モ食用作物ヲ栽ウルノ必要
 アルトキハ時ニ粟作ノ類ヲ夏作トナスコトアレモ毎年此ノ如キ淺
 根作物ヲ夏作トナスハ宜シカラズ
 深根作物ノ内豈科ニ屬スルモノハ游離窒素ヲ吸收スルノ能力ヲ有ス
 ルガ故ニ其良ク生育スルノ地ニ於テハ輪栽順次中ニ挿入シテ利ア
 リ本邦ニ於ケル著名ナル豈科作物ハ大小豆ノ類トス尙ホ休閒地ニ
 在テハ紫萐英ヲ栽培シテ綠肥ニ用フル方尋常ノ休閒地トシテ放置
 スルニ比スレバ利アリ

其他深根作物ハ若シ其根ヲ土中ニ放置スル様ニ收穫ヲナストキハ深
 層ノ養分ヲ表層ニ移スノ作用ヲナス勿論此作用ハ淺根作物ニ於テ
 モ存スルモノナレモ深根作物ニ於ケルガ如ク著ルシカラズ(地力維
 持論中ノウエルチル及ワイスケ氏表參照)
 以上陳述セル所ハ主トシテ各種作物ノ土地要素ニ關スルノ點ヲ參考
 トシテ輪栽順次ヲ定ムルノ基礎ヲ論セルモノナレモ尙ホ之ヲ定ム
 ルニ方リ更ニ考フベキノ一點アリ即チ勞働分配是ナリ
 各種作物ハ其中耕殊ニ共收穫調製ニ當リ勞力ヲ要スルニ不同アルカ
 故ニ輪栽順次ヲ定ムルニ方リテハ可成一年平等ニ勞力ヲ分配スル
 ヲニ注意スヘシ此類ハ殊ニ工藝作物ヲ輪栽順次ニ組込ムニ方リ熟
 考ヲ要スルモノナリ

輪栽順次ハ何年何次輪栽ト稱ス例ヘハ

- 初 年
- 一、麥
- 二、煙草
- 三、粟

組耕
織種

- 二、年
- 四、麥
- 五、大豆
- 七、蘿蔔

四、耕種組織

以上述べタル處ニ依リ先ツ作物ヲ撰定シ之カ種藝面積ヲ定メ而シテ之ニ栽培スベキ順次ヲ定ムルトキハ即チ茲ニ一ノ耕種組織ナルモノヲ顯出ス耕種組織ナルモノハ斯ク生スルモノナレモ之カ變遷ハ畧ホ一般社會ノ發達ト相伴フモノニシテ各國共ニ多少ノ相違アレモ其大勢ニ於テハ酷々相似ル處アリ只本邦ノ耕種組織ノ歐米ノモノト著シキ相違ヲ生スルノ點ハ本邦ニ於テハ家畜ヲ飼養セザルト米作ノ盛ナルトノ二點ニアリ

組放
織牧

甲 放牧組織

此組織ハ眞ノ耕種組織ニ屬スルモノニアラス即チ土地ヲ耕耘スルコトナク單ニ家畜ヲ放牧スルノ農法ナリ概テ人口少ク資本ニ乏シキ

組燒
織畑

モ善良ナル生草アル地ニシテ氣候温和ナル處ニ行ハル然レモ歐米ニ於テハ現時モ人口密ナル都市近傍ニ於テ乳牛ヲ飼育スル爲メニ行フコトアリ此種ノ農法ノ尤モ盛ナルハ北米産牛地トス本邦原野ニ起レル牧場ナルモノモ此種ノ組織ニ屬ス要スルニ此組織ニヨレハ土地ハ漸々瘠耗スルモノナレハ濃厚飼料ヲ購入シテ地力ノ維持ヲ圖ラサルヘカラス否ラサレハ生草ハ漸ク粗惡トナルヘシ

乙 膠圃組織

耕種組織ノ最モ原始ナルモノトス此組織ニ於テハ原野若シクハ林地ニ火ヲ放チ立草立木ヲ燒拂ヒ其地ヲ開發スルコトナク直ニ種子ヲ播下シ秋收ノ後ハ再ヒ原ノ荒地ニ復セシム本邦山間ノ地ニ於テハ今尙ホ之ヲ存ス、歐洲ニ於テハ北獨逸ノ原野ニ曾テ盛ニ行ヒタルノ法ナレトモ近時漸ク其跡ヲ絶ツニ至レリ

丙 切替組織

組切
織替

燒畑組織、切替組織

原野若シクハ林地ヲ開發シ數年ノ間之ヲ畑地トナシ置キ作物ヲ種藝シ收穫額漸ク減スルトキハ再ヒ木ヲ仕立テ、林地トナシ又ハ之ヲ放置シテ原野ニ復セシムルノ組織ナリ本邦ニ於テモ今尙ホ數多ノ府縣ニアリ想フニ現今一年切替畑ト稱スルモノハ眞ノ切替畑ト稱スルヲ得ヘキモノニアラスシテ只タ前者即チ膠圃組織ノ少シク改良セルモノニ過キササルヘシ

此法ハ勞力多キモ資本少ナキ地ニシテ且ツ土地價格ノ廉ナル處ニ行ハル其種類數多アリ即チ

(5)原野切替組織

イ、隨時切替組織

甲、定期穀作切替組織

ロ、定期切替組織

乙、定期雜作切替組織

(6)林地切替組織

イ、留株切替組織

ロ、絶株切替組織

(7)原野切替組織

此名稱ヲ附セリト雖モ敢テ原野ニ限ルニアラス或

ハ林地ニ於テモ亦此ノ如キコトアリ然レモ(6)ニ掲ケタル眞ノ林地切替組織ト異ナルノ要點ハ(イ)ニ於テハ切替テ畑作ヲナスヲ主眼トスレモ(6)ニ於テハ林地利用ヲ主眼トシ只時々之ヲ農作地ニ利用スルノ差アルナリ

隨時切替組織 只農業者ノ切替ント欲スルノ時ニ當リ畑地ニ切替ヘ數年後隨意隨時ニ原形ニ復スルノ法ナリ即チ切替組織中ノ最モ粗雜ナルモノトス

定期切替組織 前者ノ略ホ改良セルモノニシテ豫メ切替畑トナシ置クノ年限ヲ定メ其期限ノ至ルトキハ再ヒ原形ニ復サシムルナリ此組織ノ利ハ地ノ未タ瘠耗ノ極ニ達セサルニ既ニ之ヲ休養セシムルカ故ニ土地ヲ疲ラスコト少ナキニアリ

定期穀作切替組織 切替地ニ穀類ノミヲ栽ウルノ法ヲ云フ切替畑ナルモノハ山間ノ地ニ多キモノニシテ農民ハ概テ自己ノ食料ヲ得ル

ノミヲ以テ満足スルカ故ニ此穀作切替ナルモノ多シトス
 定期雜作切替組織 前者ノ少シク改良セルモノニシテ穀作ノ外尙ホ
 幾多ノ深根作物ノ類ヲ栽ウルナリ切替組織ヲ行フハ概テ交通不便
 ナルノ地ニ限ラル、カ故ニ蔬菜ノ栽培ハ單ニ自家用料ヲ得ルニ止
 マリ敢テ之カ栽培ヲ盛ニセス
 (ろ)林地切替組織 林地利用ヲ主トスルノ地ニ於テ伐木ヨリ林地ノ再
 成ニ至ル迄其地ニ付キ農業利用ヲ圖ルノ切替組織ヲ云フ其法ニ二
 種アリ共ニ矮林(雜木林)ニ行ハル
 留株切替組織 林地切替組織ノ内普通ナル法トス即チ先ツ林木ヲ切
 リ倒シ其樹株ノ間ヲ耕耘シ畑作物ヲ作り漸ク藁ノ長スルニ及ンテ
 廢止ス此種ノ切替組織ハ薪炭林ニ多ク行ハル
 絶株切替組織トハ林地切替ノ一法ナリ此法ニ於テハ樹木ヲ伐採シ其
 殘株ヲ掘除シ後數年間其地ヲ農地ニ利用シ更ニ林地仕立トナスナ

組草
織肥

リ此法ハ多ク古キ山林ニ於テ其林相ヲ改良スルカ爲メニ行フモノ
 ナリ即チ一ハ農地ニ利用シテ收益ヲ圖ルト同時ニ其地ヲ清ムルノ
 策タリ

丁 草肥組織

草肥組織ハ本邦ニ多シ北獨逸地方ニ行ハル、モノト類似ス此法ニ於
 テハ耕地ノ肥料トシテ主ニ草肥場即チ所謂秣場ト稱スルノ地ニ生
 セル草ヲ利用ス

切替組織ニ於テハ耕地ヲ取換フレ此草肥組織ニ於テハ耕地ヲ一定
 シ草肥場ノ地力ヲ取リテ之ヲ耕地ニ移シ多年同一ノ土地ヨリ收穫
 ヲ期スルナリ

戊 穀作組織

穀作組織トハ穀作種藝ト休閑地ト交互スルノ組織ナリ歐洲ニ於テハ
 一圃穀作、二圃穀作、三圃穀作等ノ別アレトモ本邦ノ如キ一年ニ二作

草肥組織、穀作組織

組穀
織作

ヲナシ得ルノ地ニ於テハカ、ルヲナシ
 本邦ニ於テ一年一回穀作ヲナシ殘ル半期ニ土地ヲ休閒セルノ處ハ穀
 作組織ヲ行フノ地ナリ、田地ニ於テハ斯ル地頗ル多シトス又例令ヒ
 田地ニ二毛作ヲナスト雖モ稻麥ヲ連作スルトキハ又穀作組織タル
 ナリ即チ本邦ニ於テハ田地ニ於テハ概ネ穀作組織ノ農業ヲ行フモ
 ノトス然レモ畑地ニ於テハ穀作組織ノ地多シトセズ若シ冬作トシ
 テ麥ヲ作り夏ニ於テモ粟稈ノ類ヲ作り毎年之ヲ反覆種藝スルトキ
 ハ是レ又一ノ穀作組織ノ農法ト稱スベキモノナレモ本邦ニ於テハ
 斯カル農法ヲ行フノ地ハ多カラザルナリ即チ例令冬作トシテハ必
 ズ麥ヲ作ルト雖モ夏作トシテハ或ハ穀作ト交互シテ他作ヲナスナ
 リ此ノ如キ場合ニ於テハ最早之ヲ穀作組織ト稱スルヲ得ズシテ之
 ヲ輪栽組織ト稱ス

己 穀作栽草組織

本邦ニ於テハ家畜ノ飼料トシテ牧草ヲ栽ウルコトナキガ故ニ此組織
 ヲ欠ク

歐洲ニ於テ單ニ穀作組織ト稱スルハ穀作ト休閒地トヲ交互行フノ組
 織ニシテ若シ此休閒地ニ牧草ヲ種藝スルトキハ穀作栽艸ト稱スル
 組織タルナリ

本邦ニ於テハ例令田地ニ紫雲英ヲ播種スト雖モ其目的ハ單ニ綠肥ト
 ナスニアリテ他ニ此紫雲英ノ直接利用ヲ圖ルモノニ非ザレバ穀作
 栽草組織ト稱スルヲ得ザルベシ

庚 耕園組織

此組織ハ園地ニ於テ全時ニ農作物ヲ栽培スルノ法ナリ本邦ニ於テハ
 桑園、茶園、櫨園等ニ農作物ヲ栽ウルコトアルカ故ニ多ク此組織ヲ見
 ルト雖モ歐洲ニハ少ナシ
 此組織ニ於テハ自然園樹ノ根ヲ害フノ虞アルニヨリ深耕ヲ爲スヲ得

組隨
織意

スト雖凡又上層ニ存シ直接樹根ノ吸收シ得サル處ノ養分ヲ利用スルノ便アリ
此組織ニ於テハ成ルヘク淺根作物ヲ栽ウヘシ深根作物ハ園樹ト養分ヲ爭奪スルノ嫌アルカ故ニ之ヲ避クヘシ但シ豈科植物ノ如キハ反テ之ヲ栽培シ遊離窒素ヲ利用スルノ益アリ此種ノ植物ハ綠肥トシテ栽培スルトキハ最モ利アルナリ

辛 隨意組織

植物交互栽植ノ理ニ反セサル限リハ一定ノ輪栽順次ニヨルコトナク任意ニ當時最モ利益アリト認ムル作物ヲ栽ウルコトヲ得此組織ハ農法中最モ進歩セルモノナリ然リト雖凡其撰擇ヲ誤ルトキハ意外ニ勞力ト資本トヲ要シ反テ得失相償ハサルコトアリ

壬 輪栽組織

輪栽組織トハ一定ノ輪栽順次ヲ定メテ耕耘ヲ行フノ農法ナリ

組輪
織栽

農組
業於
ケル
畜家

輪栽組織ト稱スルトキハ通例穀類(即チ淺根作物)ト澗葉作物(即チ深根作物)トヲ交互輪栽スルノ耕種ヲ云フモノナレ凡時ニ前者ノ繼續シテ後者ト相交ハルコトアリ斯クノ如キ場合ニ於テハ或ハ隨意輪栽組織ト稱スルコトアリ蓋シ正則ノ輪栽組織ト異ルヲ示スモノトス本邦ニ於テハ畑地ニ通例二作ヲナスモノナルカ故ニ間作輪栽ト跡作輪栽トノ別アリ假令ハ蘿蔔作ノ間ニ大麥ヲ播種スルカ如キハ間作輪栽トス要スルニ間作輪栽法ハ勞力多キ處ニアラサレハ行フニ利アラス

第二節

農業組織ニ於ケル家畜

Die Viehhaltung im Wirtschaftssystem.

農場所産ノ植産物ヲ直ニ相當ナル價格ニテ販賣シ得サルトキハ之ヲ畜産物ニ換へ販賣ヲ計ラサルヘカラス殊ニ粗放農法ニ於テ然リトス加之農業ヲ營ムニハ畜力ヲ利用スル方經濟ノコトアリ此場合ニ於テモ家畜ヲ飼養セサルヘカラス

茲ニ於テ飼育ニ二箇ノ目的ヲ生スヘシ

甲、畜産物ヲ目的トスルノ飼畜

乙、勞力ヲ目的トスルノ飼畜

農業組織ニ於ケル家畜飼育ノ主ナル點ハ甲者ナリト雖モ本邦ニ於テハ僅ニ畜産地方ニ其例ヲ見ル

農業ニ於ケル家畜飼育ノ利ハ單ニ右ニ述フルノミニ限ラル、モノニ非スシテ又畜舎肥ヲ得ルノ利アリ畜舎肥ナルモノハ其固有ノ肥培的効力ノ外更ニ土質改良ニ對シ著シキ效能アルモノナレハ農業經營上必要欠クヘカラサルモノトス但シ止ムヲ得サルモハ堆肥ヲ製シテ之ヲ補フコトヲ得是レ本邦普通ノ慣行ナリ

第三節

農業組織ニ於ケル養蠶
Die Leidenfucht Im Wirthschaftssystem.

農戶家族ノ者ニテ飼養シ得ル限り養蠶ヲ行フモハ大ニ勞力利用ノ法ニ合フモノナルカ故ニ土地ノ桑樹ニ適スルノ地ニ於テハ之ヲ行フ

農業組織ニ於ケル養蠶

ヲ可トス

桑樹ハ圃地ノ周圍ニ栽ウルモハ大ニ土地ヲ利用スルヲ得ヘシ又假令別ニ桑園ヲ設クルトナスモ自己ノ住屋ニテ自己ノ家族ノ勞力ヲ以テ飼育シ得ル限度ヲ超過スルモハ反テ其利薄キコトアリ

第四節

農業組織ニ於ケル農藝工業
Die Landwirthschaftliche Ischen Gewerbe
Im Wirthschaftssystem.

農業組織ニ於ケル農藝工業

農業者ノ本分ハ人類ノ食料ヲ作ルノ外又種々ノ工業的原料ヲ作ルニアリ然レモ此等ノ工業原料ハ或ハ幾多ノ加工ヲ行ヒ販賣スルノ方遙ニ利アルコトアリ斯ル工業ハ農藝工業ト稱ス
本邦ノ如キ勞力餘リアルノ國ニ於テハ殊ニ簡易ナル農藝工業ヲ行フ方農家ニ取リテ所得多シ此等ノ工業ハ一ニ農家ノ餘業ト稱シ往々自己裁得ノ農作的工藝原料以外ニ及ホスコアリ
要スルニ農藝工業ナルモノハ單ニ農家ニ相應ノ勞働賃ヲ收得セシム

農業ニ於ケル農藝工業

ルノミナラス又其各種ノ殘滓ヲ直ニ原地ニ還補シ得セシムルノ利アリ故ニ成ルヘク之カ普及ヲ獎勵スルヲ要ス然レモ某種ノ農藝工業ニ於テハ其收益ノ多少ハ寧ロ規模ノ大小ニヨルコトアリ即チ生絲製造業及ビ砂糖製造業ノ如キハ其例トナスヲ得ベシ故ニ斯クノ如キノ農藝工業ハ戸々別々ニ之ヲ行ハンヨリ寧ロ共同製産ヲ圖ルヲ利アリトス

第四章 農場管理

Die Verwaltung Lines Landgütes.

農場管理ハ農場主ノ職務ニ屬ス而シテ管理ノ良否ハ農場ノ收益上著シキ關係ヲ有スルモノトス
農場管理ノ職ニ當ルモノハ管理者ト稱ス大農場ニ於テハ特ニ所謂管理者ナル者ヲ置キ農場主ノ職務ヲ分掌セシムルコトアレモ中小農場ニ於テハ農場主ハ同時ニ農場管理ノ職ニ任ズ

- 農場管理者ノ職務枚舉スルニ暇アラズト雖モ今其主要ナル者ヲ示セバ
- 一、 役員ヨリ下労働者ニ至ル迄ヲ巧ニ使役シ之ヲ監督スルコト
 - 二、 各種ノ労働ニ適任者ヲ舉ゲ用キルコト
 - 三、 毎日ノ仕事ヲ豫定シ前日ニ之ヲ各人ニ分擔セシムルコト
 - 四、 就業前ニ各種労働ノ準備ヲ點檢シ各人ノ勤怠ヲ調ブルコト
 - 五、 農舍畜舍ノ巡檢
 - 六、 作物及ビ家畜ノ状態觀察
 - 七、 農産物及ビ肥料飼料等ノ市價ノ觀察
 - 八、 農場資本ノ監査
 - 九、 農業法ノ適不適ノ看察
 - 十、 作付設計ヲ作り且ツ歳費ノ豫算ヲ立ツルコト
- 以上職務ノ内管理者其人ノ氣質ニ存スルモノ多シ要スルニ果斷ニ富

作付設計

作付設計
 ミ○注○意○精○密○ナ○ル○者○ハ○最○モ○良○ク○其○職○ニ○堪○フ○
 作付設計トハ各農圃ノ作付及ビ耕耘ニ係ル設計ヲ云フ此等ノ設計ハ
 通例夏季及ビ秋季農閑ノ時ニ調製ス
 之ガ式様左ノ如シ

明治何年夏作設計

圃地 番號	面積	輪栽 順位	前作	作付	畦幅	一反歩 收量	全種量	肥料	整地 中耕	備考
西二番	110	麥	陸稻	小麥 フルツ種	110					

豫算表

右作付設計ニ基キ次ニ調製スベキハ物品收支豫算トス而シテ農場所
 産ノ農産物ハ總テ此豫算ノ收入トシ各事業部ニ對スル之カ交付ハ
 總テ其支出トシ尙ホ餘ス處ハ販賣豫定額トス
 此豫算ハ無論夏冬作物ノ收穫額ニ付キ確カナル見込ヲ付ケ得ベキ時
 期ニ達セザレハ調製スルヲ得ザルナリ

豫算料

作物	收			入					出					差引	
	前年 繰越	豫定額	收穫額	農夫 支給	家計用	種子用	飼料用	雜用	合計	支	出	合計	過	不足	
米															
麥															
大豆															
稿稈															
秣															
秣															

備考

過ハ賣却シ得ハキ豫定額ヲ示スモノナリ
 不足ハ購入スヘキ豫定額ヲ示スモノナリ

右ノ豫算ニ基キ略ボ賣却シ得ベキ農産物額ヲ知り又購入セザルベカ
 ラザル之ガ額ヲモ知ルカ故ニ時機ヲ見計ラヒ商機ヲ誤ルコトナク
 賣買取引ヲ爲スヲ得ベシ
 又家畜ヲ飼育スルノ場合ニ於テハ飼料豫算ナルモノヲ調製スルヲ要
 ス其制式左ニ示シ如ス

作付設計

作付設計

種	子	肥	料	七	營	繕	費	八	雜	支	出	支	出	合	計
.....
.....
.....

元二百三十三

一 差引超過

支出(或ハ收入) 何程

二 外ニ前年ヨリ繰越

繰越現金

全 貸金

全 借金

差引過不足

二 口

過不足

概略右ノ豫算ヲ基トシテ本業ヲ營ムヘキモノナレルカ實行ニ方リ
 テハ豫定ト相異ヲ生スル點少ナシトセス實際ノ金錢ノ出納ハ必ス
 簿記スルヲ要ス元來簿記學ハ本章ノ一節トシテ講スルモノナレル
 評價學ヲ終リタル後ノ方了解シ易キカ故ニ便宜ノ爲メ之ヲ別篇ト

作付設計

元二百三十三

作付設計

ス

地力維持論モ亦經營學中ニ挿入スルルハ本章ノ一節トナスヘキモノ
ナリ然レモ之レ亦前者ト同シク別篇トセリ

(完)

元二百三十四

農業經營學下編終

享之卷

農業評價學上編(物品ト役力ノ評價)

緒言

余ハ曩ニ農業經濟學即チ農業ノ組織及ヒ管理ニ關ル原則ヲ論スルノ學ヲ講述スルコト久矣則チ今此原則ヲ實際ニ於テ或ル場合ニ適應スベキ方法ニ就テ更ニ講述スル所アラントス

假令諸子ハ學問ノ原理ニ於テ通曉セザル所ナキモ之レヲ或ル場合ニ適用スヘキ方法ヲ知得セザレバ焉ゾ學理ノ應用ヲ得ベケンヤ而シテ此農業經濟ヲ實地ニ適應スルノ方法ヲ指導スルモノヲ農業評價學ト云フ

普通ニ評價ト曰ハバ單ニ土地ノ評價トノミ考察ヲ下スモノ多シ(バゾスト、ビルレバウム、ワルツ諸氏ノ如キ)然レモ近年ニ至ルニ及ンデ評

價ノ二字其意義ヲ汎フシ總テノ農業經濟上ノ原理ヲ以テ農業ノ組織及ヒ管理上ニ於テ計算的ニ應用スルノ學ハ悉ク評價學ノ範圍ニ屬スルニ至リ而シテ土地ノ評價ハ僅ニ其一部ヲナス

評價學ノ講述ヲ爲スニ方リテハ終始例ヲ或ル農場ニ採リ之レヲ解説セザレバ爲メニ前後ノ關係ヲ失シ紛雜ニ趨クノ虞レアリ故ニ余ハゴルツ氏ノ評價學ト題スル書中ニ掲クル一農場ヲ參照シテ講述セント欲スゴルツ氏ハプロイセンノケーニヒスベル市近傍ナルワルダウ農場ニ在テ七年間農場管理人タリシ人ナリ故ニ常ニ例ヲ此農場ニ取レリ其面積ハ左ノ如シ

- 一耕地 二百五十町
- 一牧草地 八十町
- 一放牧地及ヒ濕地 六十町
- 一庭園及ヒ菜園 五町

- 一水面 十町
- 一農舍附屬地道路及ヒ建物敷地 二十町
- 合計 四百二十五町

即チゴルツ氏ガ此農場ニ於テ實際ニ運用セシ學理ヲ探テ逐次之レヲ詳述スベシ

右ニ述ベタル如ク農業評價ナル學科ハ農業經營學ノ應用論ナルニ外ナラザレハ能ク之ヲ講ジテ遺憾ナカラシメンニハ自ラ農業ニ從事シテ永ク之ガ經營管理ノ任ニ當リタル者ニ非ラザレバ能ハザルナリ然ルニ余ニシテ今之ヲ講述スルニ至レルハ頗ル痛心ノ至リニ堪ヘズト雖モ亦止ムヲ得ザルニ出ツ諸子ニシテ良ク評價ニ係ル方針即チ之ガ方法ノ要領ヲ會得スルニ至ラバ他日之ヲ本邦農事ニ試ミテ謬差ナキニ庶幾カラシム

第一章 農場所産ノモノニシテ再ヒ農場ニ於テ消費セラル、物品ノ評價

農場所産ノモノニシテ再ヒ農場ニ於テ消費セラル、ノ物品ハ如何ナル些細ノモノト雖モ之レカ交換價值ヲ評定スルニアラザレバ農場全体若クハ其一部ノ損益ヲ算定スル能ハズ

テリアブロック氏等ハ農業評價ノ基礎トシテ「ライ麥」ヲ用ヒタリ然レモ貨幣經濟ノ發達ト農業組織ノ彌雜駁ニ赴ケルトニ由リ此評價ノ基礎ハ遂ニ適法トナスヲ得サルニ至レルヲ以テ現時ノ農業經濟學者ハ皆貨幣ヲ以テ價值ヲ表スニ至レリ

農場所産ノモノニシテ再ヒ農場ニ消費セラル、物品中ニ二類アリ一ハ市場ニ販賣シ得ベキモノニシテ即チ市價アルモノ、一ハ市場ニ販賣シ得ベカラサルモノニシテ即チ市價ナキモノトス而シテ前者ヲ有市價品ト云ヒ後者ヲ無市價品ト云フ

有市價品ト無市價品

有市價品トハ即チ主ニ販賣ノ目的物トナルモノニシテ何時ニテモ多量ノ買收者アルモノヲ云フ即チ各種ノ穀菽類ノ如キ是レナリ

無市價品トハ農場ニ於テ再ヒ消費セラレサル可ラサルノモノニシテ必スシモ常ニ多量ノ買收者アルヲ期シ得ベカラサルモノヲ云フ即チ藁、乾草、根菜類、厩肥ノ如キ此種ニ屬スルモノナリ然レモ無市價品ニシテ時ト場所トニ依リ有市價品トナルコトアリ

有市價品ヲ農場ニ於テ消費スル場合ニ方リテハ之レカ價格ハ其近傍市場ニ於ケル平均市價ヨリ市場ニ至ル迄ノ運輸費ヲ扣除シタル額ヲ以テ之レニ充ツスル場合ニ於ケル市價ハ最近二十年間ノ平均ヲ探ルベシ

無市價品ト雖モ亦市價ヲ有スルコトアリ然レモ之レカ農業的用價ト比例ヲ有スルコト少ナキガ故ニ此等ノ物品ハ市價ヲ有スル或ル物品ニ比較ヲ採リ之レカ用價ヲ算出セザルベカラズ

有市價品ト無市價品

享五

第一節 無市價飼料ノ價格評定

歐洲ニ於テハ彼ノウオルフ氏ノ算定セル養素價格(可消化蛋白質一キロ三十三片、可消化脂肪一キロ二十二片、可消化纖維一キロ十一片)アレモ本邦ニ於テハ未タ一定セル養素價格ノアルナシ

本邦ノ如キ交通ノ不便ナルヨリシテ地方ニ依リ物價ニ著ルシキ不同アルノ所ニ在テハ未タ一定ノ養素價格ヲ定ムル能ハザルベシ故ニ農業者ハ其地方普通ノ有市價飼料ノ價格ニ由リ各養素ノ價格ヲ算定セサルベカラズ

此計算ニ用フル養素成分ハ本邦所産ノモノニ付テハ分析研究極メテ尠ナシ故ニ暫クウオルフ氏ノ表ニ據ルノ外ナシ是レ余ノ頗ル遺憾トスル所ナリ

計算法ニ二途アリ甲ハ可消化養素成分ニ據ルモハニシテ乙ハ全養素成分ニ據ルモハナリ尤モ農業評價ニハ常ニ甲ヲ用ヒ乙ハ主ニ飼料

販賣價格ノ計算ニ用フ而シテ乙ハ即チ此目的ニ對シ獨逸國各農事試験場ニ於テ適用スルノ法ニシテ全養素量ヨリ價格ヲ算出スルニ際シ用ユ

甲ニ於ケル養素割合ハ 蛋³=脂²=炭¹

乙ニ 全 蛋⁵=脂⁵=炭¹

計算ハ必ズ一滋養素基(Nährstoff-einheit)ヲ基トシ起算ス一滋養素基トハ可消化的纖維一貫目ヲ云フ(歐洲ニテハ一斤若クハ一「キロ」ヲ云フ本邦ニテハ一貫目ヲ滋養素基ニ採ルヲ至當トス然レモ本邦ノ學士間ニ於テハ未タ一定セズ)而シテ滋養素ノ割合ハ 蛋、脂、炭トス

標準トシテ用フベキ有市價飼料トシテハ大麥ヲ用フル可ナラン如何トナレバ麥價ハ概ネ劇シキ變動ナキモノニシテ且飼料ニ供用セラル、ノ穀物ナルガ故ナリ

無市價飼料ノ價格ヲ定メント欲セバ有市價飼料ノ各滋養素ノ價格ヨ

可消化的滋養素價格算出

リ凡ソ四割ヲ減スベシ(ウオルフ氏ハ三分一即チ三割三分三厘ヲ減スベシト云フ)要スルニ無市價飼料ハ有市價飼料ニ比スレハ販路少ナク且運輸ニ不便ナルガ故ニ經濟的價值ハ比較的低キモノナリ
 今左ニ算出法ヲ例示セン

甲、可消化的滋養素價格算出(大麥)

大麥百貫目	8,0 × 3 = 24,0
蛋	1,7 × 2 = 3,4
脂	5,8,9 × 1 = 58,9
炭	86,3
	86,3 滋養素基

今假リニ大麥百貫目ノ價格ヲ八圓六十三錢トナストキハ
 $\left(\frac{8,63}{86,3} = 0,10\right)$ — 滋養素基ノ價格十錢トナル然ルトキハ
 蛋 3 × 10 = 30 錢
 脂 2 × 10 = 20 錢
 炭 1 × 10 = 10 錢
 トナル然ルニ之ヲ無市價飼料ニ用ヒトスルニ

可消化的滋養素價格算出例

ハ四割ヲ割ラ減ズベキコト既ニ陳述セル如シ

然ルキハ無市價飼料ノ滋養素價格トシテ左ノ數ヲ得ベシ

蛋	30 × 6 = 18 錢
脂	20 × 6 = 12 錢
炭	10 × 6 = 6 錢

此計算價格ヲ以テ稻藁ノ飼料價格ヲ算出スルノ例

然ルニ稻藁百貫目ハ可消化養素ヲ含ム事左ノ如シ

蛋	2,7 × 18 錢 = 48 錢,6
脂	0,6 × 12 ク = 7,2
炭	36,2 × 6 ク = 217,2
	273,0
	二圓七十三錢トナル

乙、全養素價格算出(大麥)

蛋 10,0 × 5 = 50,0

全養素價格算出例

全養素價格算出

全養素價格算出

脂 2,5 × 5 = 12,5

炭 63,9 × 1 = 63,9
126,4

即チ前例ニ依リ大麥百貫日ハ八圓六十三錢ナルガ故ニ $\frac{8,63}{126,4} = 0,068$

トナル即チ

蛋 5, × 6,8 = 34,0 錢 } 20,4

脂 5 × 6,8 = 34,0 錢 } 此四割減 = 20,4

糞 1 × 6,8 = 6,8 錢 } 4,1

然ルニ稻藁百ノ日ノ全養素成分ニ依レバ

蛋 6,0 × 20,4 = 1,224

脂 1,9 × 20,4 = ,387

炭 33,9 × 4,1 = 1,389
3,000 三圓トナル

第二節 厩肥價格ノ評定

厩肥價格ノ評定

厩肥價格ノ評定ハ飼畜ノ得失、役畜勞働賃ノ計算及ヒ作物生産費ノ計算等ニ際シ極メテ必要ヲ感スルコトアリ蓋シ厩肥ナルモノハ飼畜ヨリ生スル一ノ副産物ナルカ故ニ眞ノ飼畜費ヲ知ラント欲セハ先ツ之カ飼育費ヨリ生産厩肥ノ價格ヲ控除セサルヘカラス

往時ノ農業經營學者ハ厩肥ノ價格ハ飼畜ニ供用セル糞ノ價格ト略ホ相均シキカ故ニ收支相殺スト云ヘリト雖モ此說ハ現時ノ如ク濃厚飼料ヲ用フルノ時代ニ於テハ決シテ適切ナリト云フヘカラス

又ラムブルノ如キハ厩肥ヲ目シテ飼畜ノ副産物ニアラストナシ之ヲ飼畜ノ殘滓トシ敢テ價值ナク又生産費ヲ要セサルモノトセリ勿論厩肥ハ決シテ飼畜ノ目的物即チ生産物ニアラサルコトハラムブルノ稱道スルカ如シト雖モ之ヲ以テ價格ナシトナスハ誤謬ノ甚シキモノト云フヘシ

元來厩肥ハ無市價品ナルヲ以テ現時之カ價格ヲ算定スルニハ單ニ二

厩肥價格算定

厩肥價格ノ評定

法アリ一ハ其生産費ニ基ツクモノニシテ他ハ其用價ニ基ツクモノナリ而シテ之カ購入代價ヲ以テ之カ價格トナスヲ得ル場合ハ單ニ其市價ヲ有スル地方ニ限ル然ルニ本邦ニ於テハ未タ此理ヲ曉ルモノ少ナク何レノ場合ヲ問ハス且ツ市價ヲ有セサルノ地方ニ於テスラ尙ホ之カ購入代價ヲ以テ直ニ之カ價格ト見做スモノアリ蓋シ評價ノ法ヲ失セルナリ

獨乙ニテハ各成分効用ノ割合ヲ加里1、磷酸2、窒素5、トナセリ生産費ニ基ツキ算出スヘシト立論スルモノハ飼畜諸費ヨリ畜産物ノ代價ヲ控除シ其殘額ヲ以テ厩肥ノ生産費トナシ直ニ以テ厩肥價格ト看做スヘシト云ヘリ此所論ハ恰モ厩肥ヲ飼畜ニ係ル主産物トナスニ外ナラス然ルニ飼畜ノ本旨ハ勞力若シクハ畜産物ヲ需ムルニアリテ肥料ハ只一ノ副産物タルニ過キササルモノナレハ此評價法ハ正鵠ヲ失セルモノト謂ハサルヲ得ス

要スルニ厩肥價格ハ其用價ニ據リテ之ヲ定ムルヲ適法トナスヘク而シテ其用價ハ主トシテ厩肥中ノ三主要成分ニ依リテ定ムルヲ至當トス

厩肥ノ三主要分量ハ分析試験ニヨリテ之ヲ驗出セハ蓋シ誤リナカルヘキモ農家ハ之ヲ行フ能ハス故ニ此量ハ飼料ヲ基トシテ之ヲ算出セサルヘカラス

假リニ馬一頭ヲ飼育セルニ燕麥千四百六十、キロ、乾草二千百九十、キロ、藁稈七百三十、キロヲ要セシトセハ其含有セル三主要成分左ノ如シ

	窒	加	磷
燕麥	二八、〇 <small>キロ</small>	六、四 <small>キロ</small>	九、〇 <small>キロ</small>
乾草	三一、〇	二八、九	九、〇
藁稈	一、七	五、七	一、五
合計	六〇、七	四一、〇	一九、五

厩肥價格ノ評定

然ルニ此等ノ成分ノ何割カ糞尿トナリテ動物体外ニ出ツルモノナル
ヤハウォルフノ研究ニ據レハ左ノ如シ

成分名	割合	蓄類	糞中ニ在テ排泄セララル、%				
			牝牛	剋牛	羊	馬	平均
窒素	尿中	合計	四七、五	三三、九	四六、七	三三、四	四〇、一
			三二、〇	五四、八	四二、三	六〇、七	四七、二
窒素	合計	合計	七八、五	八八、七	八九、〇	九三、一	八七、三
			五三、九	六四、六	五七、九	六二、五	五九、七
礦質物	全上	合計	四三、一	三四、三	四一、〇	三七、五	三九、〇
			九七、〇	九八、九	九八、九	一〇〇、〇	九八、七

即チ窒素ハ供給量ノ一割以上ヲ体外ニ排泄セラレサルモ礦質物ハ殆
ド全量ヲ排泄セラル、ヲ見ル故ニ窒素ニ限り此減量ヲ見積ラサル
ヘカラス即チ左ノ如シ

被給量	窒素	加里	磷酸
六〇、七	四一、〇	一九、五	
△排泄歩合(馬)	九三、一	一〇〇、〇	一〇〇、〇
糞尿中含量	五六、五	四一、〇	一九、五

△排泄歩合ハ雜厩肥ノ
場合ニ於テハ平均數
ニ據ルヘシ

此糞尿中含量ニ更ニ敷料中ノ成分量ヲ加フヘシ

敷料中含量

(藁稈千、キロ)	二、五	七、〇	一、五
合計	五九、〇	四八、〇	二一、〇

厩肥中ノ三主要成分量ハ右ニ算出シ得タルヲ以テ更ニ進ンテ各成分
ニ對スル代價ヲ算出セン

今假リニ窒素一「キロ」二十五錢、加里一「キロ」五錢、磷酸一「キロ」十錢、トセハ
右ニ示セル三成分ノ代價ハ左ノ如シ

窒

加

燐

一四、七五

二四〇

一一〇

合計十九圓二十五錢ニ當ル

然ルニ厩肥ハ三成分ノ外尙ホ腐植質物ヲ含ムコト著シキカ故ニ之ガ二割乃至二割五分ノ増價ヲナサ、ルヘカラス即チ

$$19.25 + (19.25 \times 0.2) = 23.10 \text{圓}$$

此二十三圓十錢ナル金額ハ新鮮ナル状態ニ於ケル厩肥ノ價格ナリ然レモ厩肥ナルモノハ多少堆積醱酵セシムルモノナルカ故ニ有機物ノ多量ヲ失ヒ且ツ少許ノ窒素ヲ消失セシムルモノナルカ故ニ爲メニ價格ニ凡ソ一割(ゴルツ氏)乃至一割五分ヲ減スルモノト看做シテ可ナラン即チ新鮮ナル状態ニ於テ有セル處ノ廿三圓ノ價格ハ凡ソ二十圓ニ減縮ス而シテ今假リニ茲ニ例示セル肥料ヨリ一千「キロ」ノ厩肥ヲ得ルモノト

厩肥中
ノ腐植
物質

價格ノ
減少

或ル論
者ノ法

セハ百「キロ」ハ大凡二圓ニ當ルモノトス即チ之ヲ改算スレハ百貫目凡ソ七十四錢トス

此計算ノ如キハ先ツ飼料ノ豫算ヲ組ミ立テ得タルノ後ニハ之ヲ行フヲ得レモ否ラサレハ他ニ便法ヲ求メサルヲ得ス斯クノ如キ場合ニ於テハ數年ノ經驗ニヨリテ厩肥ノ成分ヲ推測スルカ否ラサレハ平均分析表ニ據ラサルヘカラス

以上陳ヘタル如ク厩肥ノ價格ハ飼料ニヨリ相定マルモノナルカ故ニ或ル經營學者ハ飼料及ヒ敷料價格ノ一定歩合ヲ以テ産出厩肥ノ價格ニ當ント試ミタリ即チプロツク、エーベルト、ビルンバウムノ如キハ飼料及敷料價格ノ一定歩合(エーベルトハ四割二分ビルンバウムハ三割五分)ヲ以テ産出厩肥ノ價格ニ充テントセリ然レモ此法ハ決シテ學理ニ適合セサルモノナルカ故ニ現今ニ於テハ之ヲ襲用セス如何トナレハ計算ノ基礎トスヘキ飼料ノ價格ナルモノハ蛋、脂、炭ノ

厩肥價格ノ評定

第十七

堆肥價格ノ評定
含量ニヨリ定マルモノナルカ故ニ窒、磷、加ノ含量ニヨリ定マル處ノ
厩肥ノ價格ト毫モ關係ヲ有スルヲナケレハナリ

第三節 堆肥價格ノ評定

堆肥トハ藁稈、肥草、落葉等ヲ堆積シ人糞尿ヲ以テ之カ酸酵ヲ促シ農閑
ノ際特ニ農場内ニ於テ製セル肥料ナリ之カ價格評定ハ之カ製造費
ニヨリテ定ムルヲ至當トス乃チ先ツ原料ノ價格ヲ用價ヨリ算出シ
之ニ之カ製造ノ爲メ要セル勞働賃(原料產地ヨリ農場迄ノ運賃等)ヲ
加ヘ更ニ堆肥舍ノ維持費ヲ加フヘシ但シ原料ヲ之カ用價ニヨリ算
出スルハ無市價品ノ場合ニ限ルモノニシテ其有市價品ハ必ス市價
ニ市場ヨリ農場ニ至ルマテノ運賃ヲ加ヘタルモノタラサルヘカラ
ス

左ニ落葉堆肥價格評定項目ヲ示ス

一 潤葉落葉

何貫目

内窒……加……
磷……

此用價

何圓

一人糞

何貫目

此市價

何圓

此自市場運賃
至農場

何十錢

一 製造人夫

何人

此賃金

何十錢

一 堆肥舍修繕維持費

何十錢

一 諸入費

何十錢

合計

何圓何十錢

此製出高

何百貫

即チ百貫目ニツキ

何十錢

第四節 其他ノ諸品ノ價格評定

農場ニ於テ特ニ評價ヲ要スルモノ、内重要トナスモノハ飼料及ヒ厩

他物品ノ價格評定

肥トス然リ而シテ時ニ亦物品ヲ以テ勞働賃ヲ支給スルノ場合ニ於テハ住居、薪炭、土地使用等ノ評價ヲナスノ必要アリ斯ノ如キニ方リテハ只一ノ原則ヲ以テ適應スベキアリ即チ物品ノ支給ヲ爲スルハ其物品支給ニ因テ農場主ニ幾何ノ費用ヲ生スルモノナルヤ將亦之レニ因テ農場主ノ收益中幾多ノ利益ヲ減殺セラルベキモノナルヤノ問題ニ就テ攻究スベキナリ

要スルニ此ノ如キ場合ニ於テ物品被給者ハ若シ此ノ如キ物品ヲ購買スル所ハ幾何ヲ支拂ハサルベカラサルヤヲ問ヒ而シテ是レニ由テ評價ヲ下スカ如キハ即チ謬レリ

第一章 人力ニ關ル計算

農業上人力ノ計算ヲ要スルニ二様アリ一ハ即チ勞働ノ種類(雇夫ナルカ若クハ僕婢ナルカ等)及ヒ其多寡ヲ定メ一ハ即チ之レニ係ルノ費用ヲ評定スルモノナリ

第一節 必要ナル人力ノ多寡ノ計算

甲、雇夫數計算

日雇勞働者需要ノ多寡ハ夏期ト冬期トニ依テ大ナル相違アルガ故ニ之レヲ別タサルヲ得ズ

而シテ一事業ニ對スル勞力ノ多寡ヲ識ラント欲セバ先ツ一人ノ勞働ノ量如何ヲ知ラサルベカラズ然ルニ本邦ニ於テハ未タ此ノ如キ類ノ觀察ヲ闕ク

故ニ余ハゴルツ氏ニ例ヲ採リワルダウ農場ニ係ル計算ヲ左ニ示サン

ワルダウ農場ハ十區ニ分割シ一區廿五町歩トス而シテ其種藝作物ハ左ノ如シ

第一區 休閒地 (一町歩ニ付八百セントネルノ厩肥ヲ施ス)

第二區 冬作藝藝

雇夫數ノ計算

- 第三區 冬作小麥
- 第四區 蒞 作(一町步六百セント子ルノ厩肥ヲ施ス)
- 第五區 冬作ライ麥
- 第六區 根菜(一半ハ恭菜(二町步八百セント子ルノ厩肥ヲ施ス) 一半ハ馬鈴薯)
- 第七區 夏作穀物(クロバ_イ及ビ 艸ヲ蒔キ込ム)
- 第八區 クローバー(乾艸用)
- 第九區 全 上(放牧用)
- 第十區 冬作ライ麥

而シテ夏期ハ農事繁多ナルヲ以テ多數ノ労働者ヲ要スルカ故ニ一年間ノ農事ヲ爲サシムルカ爲メニ農場付キ農夫(Hof-Tageelöhner)ヲ常備スル場合ニ於テハ夏期ノ計算ヲ以テ標準トナサバ_ルベカラズ即チ左ニ夏期ノ計算ヲ示ス(夏農期ハ四月二十日ニ始リ十月二日ヲ以テ了ル即チ労働ノ日數ハ百五十日ナリ)

甲、耕地

第一區 休閒地	男 一三三人	女 一三三人
イ、肥料車積ミ及ビ散布		
ロ、雜草 _{ヌキ} 芟除、礫除棄		二五
ハ、耕犁助手	七五	
第二區 冬作薑菴		
イ、播種	五	
ロ、手入		二五
ハ、收穫		五〇
ニ、運搬補助		二〇
ホ、脱實及調製	一五	六〇
第三區 冬作小麥		
イ、耕犁助手		二五
ロ、播種	八	
雇夫數ノ計算	享二十三	

雇夫數ノ計算

ハ、手入
 ニ、苜取結束
 ホ、積上ケ
 ヘ、運搬車積上ケ積下シ
 ト、脱穀

享二十四

五〇
 二五
 一〇
 六

二五
 五〇
 一五
 二四

第四區 菽作

イ、耕犁助手
 ロ、播種
 ハ、苜取
 ニ、乾燥
 ホ、運搬車積上ケ積下シ

第五區 冬作ライ麥

イ、耕犁助手

二五
 二五
 八
 七五
 一〇

五〇
 一五

ロ、播種
 ハ、手入
 ニ、苜取結束
 ホ、運搬車積上ケ積下シ
 ヘ、脱穀

第六區 根菜一半恭菜 一半馬鈴薯

イ、耕犁助手
 ロ、施肥
 ハ、種下シ
 ニ、恭菜移植
 ホ、全手入レ
 ヘ、ホースホー手傳
 ト、馬鈴薯收穫

享二十五

八
 五〇
 三五
 一五
 五〇
 六六
 五〇
 五〇

二五
 五〇
 一五
 六〇
 二五
 六六
 七五
 二〇〇
 二〇〇
 三七五

雇夫數ノ計算

享二十六

第七區 夏作穀物(クローバー及ビ)	イ、播種	八	二五〇
	ロ、クローバー及ビ艸蒔附	一〇	五〇
	ハ、苜取結束	五〇	五〇
	ニ、積上ケ	二〇	一三
	ホ、運搬車積上ケ積下シ	八	一
第八區 クローバー(乾草用)	イ、二回苜取	一〇〇	三〇〇
	ロ、乾燥	九	一四
	ハ、運搬車積上ケ積下シ	九	一四
第九區 クローバー(放牧用)労働者ヲ要セズ			

第十區 冬作ライ麥

イ、ロ、ハ、ニ、ホ、

第五區(イ、ヨリホ、ニ至ル)ト全シ

一一八

九〇

耕地合計

一二二二

一二三四四

乙、牧艸地

イ、二回刈取

四八〇

ロ、乾燥

二〇

六六六

ハ、車積上ケ積下シ

二〇

三〇

牧草地合計

五〇〇

六九六

丙、雜役

雇夫數ノ計算

享二十七

耕地合計	一二二二	一二三四四
乙、牧艸地		
イ、二回刈取	四八〇	
ロ、乾燥	二〇	六六六
ハ、車積上ケ積下シ	二〇	三〇
牧草地合計	五〇〇	六九六
丙、雜役		

雇夫數ノ計算

享二十八

イ、道路、溝渠等掃除及ヒ手入	三〇〇	四五〇
ロ、飼畜手傳	一八三	一八三
ハ、其他雜用	一五〇	三〇〇
雜役合計	六三三	九三三
甲、耕地勞働	一一二二	二、三四四
乙、牧草地勞働	五〇〇	六九六
丙、雜役	六三三	九三三
總計	二、三四五	三、九七三
夏期合計		
男 二三四五人		
女 三九七三人		
合計	六三一八人	

即チ一日ニ需要ノ勞働者數ハ左ノ如シ

男 $\frac{2345}{150} = 15.6$ 人

女 $\frac{3973}{150} = 26.5$ 人 $\times 0.8 = 21.2$
 $\frac{21.2}{36.8}$

而シテ今此勞働者ニ農場附キ農夫(農場附農夫ハ自己ノ外尙ホ一人ノ手傳ヲ伴ヒ來ルノ契約ナリ)ヲ備フルモノトセハ即チ十五戸ヲ要スル割合ナリ

農場付農夫ノ一戸平均一日ニ出ス處ノ勞働者數ハ左ノ如シ

一 勞働者 一人

一 手傳 一人 $\frac{1}{8}$ 一人 $\frac{8}{8}$ 之ヲ男手間ニ改算スレハ一人四分四厘

一 女 一人 $\frac{1}{8}$ 算スレハ一人四分四厘

合計 二人四分四厘

然ルニ前計算ニ據レハ一日卅六人八分ヲ要スルヲ以テ

$36.8 \div 2.44 = x \quad x = 15$

雇夫數ノ計算

享二十九

ヲ備ヘサルヘカラス

以上ノ例ハ如何ニ斯カル計算ヲ立ツヘキカヲ示スニ足ルヘシ但シ之ヲ我農業ニ應用スルニ際シテハ本邦ニ於テハ二毛作ヲ行フヲ常トスルカ故ニ初夏及ヒ晩秋ノ兩季ニ勞力需用ノ著シク集積ムルヲ考ヘサルヘカラス故ニ本邦ニ於テハ此勞働者數ノ計算ヲ行フニハ此兩度ノ農繁季節ニ於テ要スル所ノ勞働者數ヲ基礎トシ一日處要ノ勞働者數ヲ算出シ更ニ農業者自身及ヒ其家族ニヨリ行ハレ得ヘキ勞働額(勞働者數)ヲ控除シ而シテ餘ス處ノ數ニ相應スヘキ農夫ヲ常雇シオクヘキモノトス唯タ初夏處要ノ勞働者數ヲ計算基礎トスヘキヤ或ハ晩秋需要ノ數ニ基ツクヘキヤハ其地方ニ於テ勞働者ヲ得ルノ難易ニヨリ之ヲ決セサルヘカラス要スルニ初夏ニ於テハ勞働ヲ要スルヲ晩秋ニ於ケルヨリ多キカ故ニ若シ勞働者ヲ得難キ地方ニ於テ晩秋勞働ヲ基トシテ常雇夫ヲ定メオクトキハ夏期繁劇ノ

際ニ不自由ヲ感スヘク若シ又初夏勞働ヲ基トシテ常雇夫ヲ雇ヒオク時ハ冬期ニイタリ是ニ授クヘキ業少ナク從テ勞力ヲ徒費スル虞アリ是レ即チ地方ノ狀況ニ應シテ熟考ヲ要スヘキ點ナリトス今假リニ某農場ニ於テ此二季節ノ一ニ於テ平均一日ニ男三人六分女一人五分ヲ要スルモノトセハ其農家ノ勞働者ヲ男二人女一人トセ

$$\text{男 } 3\frac{1}{5} - 2(\text{家族}) = 1.6 =$$

$$\text{女 } 1.5 - 1(\text{令}) = 0.5 = \text{男ノ勞働ニ改算シテ } \frac{0.4}{2.0} \text{ 此改算ニハ女一人ヲ男五分ニテタリ}$$

即チ更ニ二名ノ農僕(即チ年雇夫)ヲ要スルモノトス

乙、 奴婢數ノ計算

歐洲大農場ニ於ケル農僕農婢トハ主トシテ農舍内ノ雜役ニ服シ又耕馬耕牛ヲ使役シ又乳牛ヲ管理スル年雇男女ヲ云フ本邦ノ如キ小規模ノ農業ニ於テハ農僕ハ普通ノ農夫ノ職務ニツキ如何ナル勞働ニ

テモ行ハサルモノナシ農婢モ亦然リトス
 今歐洲ニ於ケル農僕農婢數計算ノ基礎ヲ左ニ示ス
 畜丁一人ノ養養シ得ヘキ家畜ノ數ハ左ノ如シ

- 一 農馬 四頭
- 一 牛 十六頭乃至廿頭(休日多ク且手數ヲ要セサルカ故ニ然リ)
- 一 乳牛 十頭乃至十二頭(但シ乳婢一人)
- 一 全 (放牧スルトキ)卅頭乃至四十頭
- 一 犢 三十頭
- 一 羊 二百五十頭乃至三百頭
- 一 豚 { 舍飼十二頭乃至二十頭
放飼四十頭乃至五十頭

算例ワルダウ農場

- 一 耕馬 三十二頭

- 一 馬車馬及ビ乘馬三頭乃至四頭
- 一 牛 百頭
- 一 羊 六百五十頭
- 一 豚 八頭

即チ是ニ所要ノ僕數ハ左ノ如シ

- 一 農僕長 一人
 - 二 耕馬擔任 八人
 - 三 乘馬擔任 一人
 - 四 牛擔任 (推乳ハ家婢ノ主ルモノトス) 三人
 - 五 羊擔任 三人
 - 六 豚擔任(家婢ノ飼養ニ係ルカ故ニ別ニ僕ヲ要セス)
- 而シテ家婢ノ數ハ左ノ如シ
- 一 家婢取締 一人

農場役員、人力労働賃ノ計算

享三十四

- 二、農婢 三人
- 三、下婢 二人

此外園丁一人ヲ要ス

丙、農場役員

本邦ニ於テハ特ニ管理者ヲ置クカ如キ大規模ノ農場ハ極メテ稀ナリトス歐洲(獨逸)ニ於テハ管理者一人ハ集約農法ノ時ハ八十町歩乃至一百町歩ヲ粗放農法ノ時ハ百町乃至百廿五町歩ヲ管理シ得ヘシ此面積以外ノ時ハ助手ヲ要ス

第二節 人力労働賃ノ計算

労働者數ニカ、ル計算ハ前節ニ示ス如シ今ヤ歩ヲ進メテ之カ賃金算出ノ法ヲ述ヘン

労働賃ハ若シ貨幣ヲ以テ支給スルノ場合ニ於テハ敢テ計算ノ勞ヲ執ルヲ要セザレモ物品支給ヲナス場合ニ於テハ總テ第一章ニ説ケル

法ニ據ルヘシ

甲、雇夫賃ノ計算

金錢ノミヲ以テ日雇賃ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ之レカ計算ハ極メテ簡單ナリ即チ使役日數ニ一日ノ賃金ヲ乘シテ計出スルコトヲ得ベシ

然レモ若シ物品支給ヲナス場合ニ於テハ漸ク複雑ナル計算ヲ要スルモノナリ今ワルダウ農場ニ例ヲ執リ農場附農夫ノ一ケ年間ニ於ケル日雇賃計出法ヲ左ニ示ス

- 一、賃金
- 一、農夫一人、手傳一人夏期賃金 麻克 三六、〇〇〇
- 一、農婦一人(一日四十片夏期間七十五) 三〇、〇〇〇
- 一、農夫一人、手傳一人冬期賃金 二四、〇〇〇
- 賃金合計 九〇、〇〇〇

雇夫賃ノ計算

享三十五

二、物品支給

一 住宅	六〇、〇〇〇
一 薪 炭	四二、〇〇〇
一 馬鈴薯畑二反五畝歩	三六、〇〇〇
一 亞麻畑四畝歩	六、〇〇〇
一 牝牛一頭ノ放牧料	三〇、〇〇〇
一 牝牛用乾草	五〇、〇〇〇
一 全 上 藁	三〇、〇〇〇
一 豚 二頭ノ放牧料	九、〇〇〇
一 家鴈二羽及ヒ雛鴈ノ放養料	一〇、〇〇〇
一 穀 物	六八、〇〇〇
一 脱稈分割	二二五、〇〇〇
一 脱稈屑穀	五、〇〇〇

一 醫藥料

物品合計

二口合計

九、〇〇〇
 五八〇、〇〇〇
 六七〇、〇〇〇

即チ農場附農夫一ケ年間一戸ノ労働賃金ハ六百七十麻克ナリ而シテ
 此賃金ニ對スル労働日數ハ左ノ如シ

農 夫	三百日
手 傳	三百日
農 婦	七十五日

合計六百七十五日

然レモ今農夫ノ労働價值ハ手傳及ビ農婦ノ労働價值ニ比シ三分一ノ
 價値多キモノトセハ手傳及農婦ノ實際労働日數ハ三百七十五日ナ
 ルモ之レカ効力ハ二百八十一日ニ當ルベシ即チ

農夫 三〇〇
 手傳及農婦 十二八一
 五百八十一日トナル

奴婢費ノ計算

而シテ農夫一人一日ノ労働賃ハ $\frac{670}{.581}$ 一、一五三麻克トナリ、手傳及
ビ農婦一人ノ労働賃ハ $1.153 \times \frac{3}{4}$ 〇、八六四麻克トナルナリ

乙、奴婢費ノ計算

奴婢ニ係ルノ費用ハ給料及ビ支給物品ノ代價ノ二者ヨリ計出ス
奴婢ハ内外諸國ヲ問ハス之ヲ置クコト多シ然レモ農業規模ノ大小ニヨ
リテ其執ル所ノ業務ニ著ルシキ差異アルコトアリ

本邦ノ農僕農婦ハ前ニ述ヘタル如ク内ハ家内ノ労働ヨリ外ハ農圃ノ
労働ニ至ルマテ一切爲サ、ルコトナク又往々所謂農家ノ餘業ト稱
スヘキ簡易ナル工業労働ニモ就クコトアリ

今左ニ武藏國入間郡地方ニ於テ調査セル例ヲ示サン

武藏國入間郡ノ例
一年ノ男

イ、農年雇男 一名

- 一 給料年額(上等) 二五、〇〇〇(中等二十圓 下等十五圓)
- 一 食費 一三、一〇〇

内譯

- 夏精麥一日一升ト見積リ二百日 一〇、八〇
- 冬精粟一日七合ト見積リ百日分 五、一〇
- 米 小麥粉 等休日食料 六十五日分 四、三〇
- 味噌、漬物 一、〇〇
- 間食物(里芋、甘藷類) 二、〇〇
- 一 被服費 四、五七〇

内譯

- 單衣二枚 一、〇四
- 冬裕衣一枚 一、二八
- 股引草鞋懸ケ 〇、七五
- 小物酒木綿、手拭、下駄、草履類、 〇、五〇
- 一 小遣錢 〇、三〇〇

年季雇男ノ給料ノ例

年季雇女ノ給料ノ例

享四十

ノ金五拾參圓〇七錢

此勞働日數三百日故一日ニ付凡ソ金拾七錢七厘ニ當ル

口、農年雇女 一名分

一 給料年額(上等)

一五、〇〇〇

一 食費

一五、六四〇

内 譯

精麥一日七合ト見積リ二百日分

七、五六〇

精粟一日四合全

百日分

二、九六〇

休日食料

六十五日分

二、七二〇

味噌漬物

一、〇〇〇

間食品

一、四〇〇

一 被服費

四、五三〇

内 譯

夏單衣

二、〇四〇

冬袷衣

一、二八〇

小物前掛、帶、下駄、手拭、足袋類

三、二二〇

一 小遣錢

〇、三〇〇

ノ金參拾五圓四拾七錢

此勞働日數三百日ナルガ故ニ一日ニ付金拾壹錢八厘餘ニ當ル

又左ニメクレンブルク農會ノ調査ニ據ルモノヲ掲ゲン

僕一人(一ケ年)

一 給料

一三、八〇〇マルク

一 食料

二、九四〇

一部屋、薪炭、燈火等諸雜費

一、五〇〇

一 被服

一、五〇〇

一 醫藥

六、〇〇〇

僕婢實ノ例

享四十一

畜力計算

合計

婢一人(一ケ年)

一給料

六九〇〇〇

一食料

二四〇〇〇〇

一部屋薪炭、燈火等諸雜費

一八、〇〇〇

一零布

一五、〇〇〇

一羊毛

二、〇〇〇

一亞麻烟

六、〇〇〇

一歲暮金

二、五〇〇

一醫藥料

六、〇〇〇

三五八、五〇〇

合計

第三章 畜力計算

四六八、〇〇〇

畜力ノ需要多寡計算

第一節

畜力ノ需要多寡計算

本邦ニ於テハ北海道又ハ他ノ新開地ヲ除ク外之ヲ行フノ要ナシト雖
モ將來或ハ各種ノ事情ノ許ニ大農場經營ノ必要起ルナキヲ保セズ
即チ左ニ之ヲ略述セントス

農場ニ必要ナル力畜ノ數ハ最モ繁忙ナル季節即チ春秋二季ノ農繁期
ニ於ケル需要頭數ヲ標準トシテ定ムルモノナリ即チ先ツ此期節ノ
日數及ヒ力畜勞働延頭數ヲ計出シ前者ヲ以テ後者ヲ除シ一日需要
頭數ヲ算出スルモノトス

力畜計算ニ於テハ馬一頭ヲ基トシテ而シテ牛ヲ用フルニ方リテハ乘
率ヲ乘シテ牛ノ頭數ヲ算出スルモノトス
今ワルダウ農場ノ例ヲ執リ頭數計出方ヲ示サン

即チ
春農期 自四月二十日 勞働日數三十日間
秋全上 自八月二十八日 全 上二十五日間

畜力ノ需要多寡計算

ワルダウ農場ノ例

イ、春期需要労働延頭數(馬)

第一區	一 犁起シ一回	一〇〇頭
	一 ハロー一回	二五
第二區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第三區		
第四區	一 犁起シ一回	一〇〇
	一 ハロー二回	五〇
	一 壓地	一二五
第五區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第六區	一 肥料運搬	二〇〇

即チ一日ノ需要頭數ニ $\frac{947}{30} = 31.5$ (凡ソ三十二頭ニ當ル)

ロ、秋期需要労働延頭數(馬)

第七區	一 犁起シ二回	二〇〇
	一 ハロー一回	二五
第八區、第九區、第十區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
其他雜役(貨物、土石等運搬)		七二
春期合計		九四七
第一區	一 犁起シ一回	一〇〇

第二區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第三區	（犁起シハ本期ニ入ルニ先チ終了セ） ルヲ以テ單ニハローノミヲ要ス	五〇
一ハロー二回		
第四區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第五區	一犁起シ一回	一〇〇
一ハロー二回		五〇
第六區	一犁起シ一回	一〇〇
第七區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第八區	本期ニ於テハ畜力ヲ要セズ	
第九區		

第十區	一犁起シ一回	一〇〇
一ハロー二回		五〇
其他ノ雜役		
一第四區菽作收納		三〇
一夏作穀物收納		三〇
一二番乾草收納		四〇
一冬作穀物脱稈		二八
一青草收納		三〇
一其他ノ雜役		九〇
秋期合計		七九八

即チ一日ノ需要頭數ハ $\frac{798}{25} = 31.9$ 凡ソ三十二頭ニシテ即チ夏期ト

均シ而シテ農場ニ於テハ更ニ馬車馬二頭、乘馬一頭、豫備馬一頭ヲ飼

養スルヲ以テ合計三十六頭トナルナリ
 然ルニ倘シ耕馬數ノ四分ノ一ヲ牛トナスルハ牛三頭ハ馬二頭ノ割ヲ
 用フレバ牛十二頭即チ馬八頭ニ換ハルモノト耕馬二十四頭雜用馬
 四頭トヲ要スル割合ナリ

役畜數ヲ評定スルニハ牛馬ノ内最モ行ヒ易キモノヲ以テ之ヲ爲ス即
 チ獨逸ニ於テハ多ク耕牛ヲ使役スルニ拘ハラヌ尙ホ馬ニ據テ之ヲ
 行フ蓋シ評價ノ基礎トナスヘキ諸數ハ即チ勞動量ノ如キハ馬ヲ示
 セルモノ多キニ因ル

耕牛ト耕馬トノ割合ハ其勞動力量ノ割合ニ依リテ定マルモノニシテ
 本邦農馬ト農牛トニ關スル勞動力量ハ未タ檢定セラレタルコトナキ
 カ故ニ余ハ茲ニ此割合ヲ示スヲ得ス獨逸ニ於ケル割合ハ經營學役
 畜ノ部ニ於テ既ニ之ヲ述ヘタリ

第二節 役畜勞動賃ノ計算

役畜
勞動賃
ノ
計算

役畜勞動賃ヲ評定スルニハ左ノ各項ヲ算出シ勞動日數ヲ以テ之カ合
 計額ヲ除スヘシ

- 一、 飼料及ヒ敷料費
- 二、 豢養費
- 三、 器具機械維持費
- 四、 力畜資本償却費
- 五、 諸費雜費又ハ諸入費トモ云フ

尙ホ其他第六項トシテ資本金利ノ項ヲ設クルモノアレハ是ハ誤レリ、
 曩キニ經營學ニ於テ論セシ處ヲ參照スベシ

今少シク右各項ニ就キ説明ヲ下スヘシ
 一、飼料及ヒ敷料 飼料ハ本編第一章第一節ニ説キタル方法ニヨリ評
 價ヲ下スヘシ敷料ハ若シ其性質飼料トナスニ適スルモノナランニ
 ハ右ノ方法ニ據ラサルヘカラスト雖モ飼料トナスニ適セサル種類

飼料及
敷料

役畜勞動賃ノ計算

ノモノナランニハ或ハ其肥料トシテノ其用價ニヨリ(飼料トナスニ適セサルカ如キ稿稈莖箕ノ類)或ハ其採集費(山艸ノ類)ニ依リ其價格ヲ見積ルヘシ

家養費

二、家養費 役畜ノ飼育及ヒ手入ニ従事スル處ノ畜丁及ヒ役畜使役ノ

器具器
械ノ維
持費

業ヲ執ル所ノ農夫ニ係ル労働賃金并ニ諸費ハ悉ク本項ニ算入ス

器具器
械ノ維
持費

三、器具機械ノ維持費 役畜用ニ係ル總テノ器具機械即チ畜舎用器具、

牽具并ニ役畜用農具及ヒ機械ノ修繕新調ノ費用ハ本項ニ屬ス要ス

ルニ此等ノ資本ハ役畜ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ假令役畜

アルモ此器具機械類ヲ欠クトキハ其効用ヲナサバルモノナレハ此

費用ハ役畜労働中ニ組込ムヲ以テ穩當ナリトス蹄鐵費モ亦宜シク

本項中ニ算スヘシ

四、役畜資本償却費 各種役畜資本ニ係ル償却歩合ハ經營學ニ於テ已

役畜資
本償却
費

ニ之ヲ講述セリ即チ此歩合ニヨリ償却費ヲ算出シ本項ニ充ツ

諸費

五、諸費 雜費又ハ諸入費ト稱シ農場全体ニ亘ル費用ヲ云フ其幾部ヲ

以テ本項ニ充ツワルダウ農場ニ於ケルゴルツノ經驗ニヨレハ年額

ノ六%ヲ役畜ノ負擔トス

馬ノ例

例 役馬一ケ年労働賃ノ計算

一、飼料及ヒ敷料費 三、七四、一二

二、家養費 七、七五〇

三、器具維持費 六五、〇〇

四、役畜資本償却費 三五、〇〇

五、雜費 二〇、〇〇

合計 五七二、六二

牛ノ例

例 役牛一ケ年労働賃ノ計算

一、飼料及敷料費 二、七、四八

二、家養費 七〇、〇〇

役畜労働賃ノ計算

役畜労働賃ノ計算

享五十二

三、器具資本償却費	一六、〇〇
四、役畜資本償却費	—
五、雜費	一〇、〇〇
合計	三七三、四八

尙ホ役畜ノ労働賃ヲ得ント欲セハ以上ノ費用ヨリ厩肥價格ヲ控除セサルヘカラス即チ左表ノ如キ成績ヲ得

	費用	厩肥價格	労働賃
馬	五七一、六二	七八、六五	四九二、九七
牛	三七三、四八	九六、一〇	二七七、三八

而シテ此労働賃ヲ労働日數ヲ以テ除セハ一日ノ労働賃ヲ得ル左ノ如シ

馬 $492.97 \div 300 = 1.64$
 牛 $277.38 \div 200 = 1.38$

右ノ算例ハゴルツニヨレルモノナリ今若シ本邦ニ於ケルカ如ク役畜ヲ以テ駄賃取リヲ爲ス場合ニ於テハ此所得ハ前例ニ於ケル厩肥ト全シク一ノ副産物ナレハ總費用中ヨリ控除シ殘ス所ノ労働賃金ヲ實際農業ニ使用セル労働日數ニテ控除スヘシ即チ今假リニ例ヲ示セハ

馬一頭一ヶ年總費用	百圓
内 全産出厩肥價格	十五圓
全駄賃取リ百百分	五十五圓
差引	三十圓
合計	七拾圓

然ルニ今農業ニ使役セル日數ヲ百日トセハ一日ニ對スル労働賃トシテ三拾錢ヲ得

今左ニ齋藤助教ノ調査ニ係ル駒場ノ例ヲ掲ク
 ◎一馬一ヶ年労働賃(馬平均生体量一〇八貫)

駒場ノ一例

役畜労働賃ノ計算、駒場ノ例

享五十三

駒場ノ役畜労働賃

享五十四

一、飼料及ヒ敷料

此代金

七五、九三四

内譯

碎大麥	五七一、 ^升	同	一一、四二〇
碎玉蜀黍	五二七、	同	一三、一八五
麩	一〇六六、	同	二一、三二〇
干草	六九五、 ^四	同	二二、九四八
食鹽	一〇、 ^五	同	〇、二六三
布料	六七九、 ^八 (主ニ麥料ヲ用井)	同	六、七九八

二、牧夫賃 一人一ヶ年七拾五圓 一人十五頭管理ノ見積リ

五、〇〇〇

三、器具費 駒場ニテ五頭使用ノ積リトシ

一、八〇〇

二馬用犁具、ローラーニモ用キ二組 此元價

一六、〇〇〇

一馬用ハロー、畦立犁具 一組

五、〇〇〇

二輪車馬具

八、〇〇〇

飼料桶

五個

六、〇〇〇

厩舎掃除器

一式

三、〇〇〇

厩肥運送車

一輪

一〇、〇〇〇

馬清潔器

一組

一、〇〇〇

飼料入箱及馬洗桶

一個ツ、

五、五〇〇

元價計

五四、〇〇〇

平均六ヶ年保存トシ 54/6 即チ九圓 一ヶ年五疋ノ費用(即チ元價

ノ凡ソ十八%ニ當ル)

9/5 即チ一、八圓 一ヶ年一頭分ノ費用

四、力畜資本償却

元價ノ10%

九、〇〇〇

計

九一、七三四

◎一牛一ヶ年労働賃(駒場ノ例)

(駒場ノ牛平均 休量一三七貫)

一、飼料及ヒ敷料

五八、七五七

駒場ノ役畜労働賃

享五十五

内

碎大麥	三、六〇八	七、二一六
碎玉蜀黍	三、五一〇	八、七八三
麩	六、二〇四	一、二、四〇八
乾草	六、七七五	二、二、三五八
甘藷及ヒ根菜	七、二九六	一、一〇四
食鹽	〇、一三六	〇、二八四
敷料(主ニ麥稿ヲ用キ)	六、六〇四	六、六〇四
小計		五八、七五七

- 二、牧夫賃 馬ト同額 五、〇〇
- 三、器具費 全上 一、八〇〇
- 四、力畜資本償却(元價ノ7%) 四、九〇〇
- 五、其他雜費 若干

計

七〇、四五七

厩肥一ケ年ノ産出高(一ケ月間一回ニ秤量シタル積算數ナリ)

牛一頭ニ付新鮮厩肥 二八九六三

馬全 二〇一六二

之ヲ腐熟スレハ二割ヲ減スルモノトセハ

牛厩肥 二、三二七

馬厩肥 一、六一三

厩肥ノ評價牛馬平均百貫目七拾五錢ツ、トシ

牛肥全 一七、三三八

馬肥全 一、二、一〇

労働賃ヲ算出スル左ノ如シ

一ケ年費用 厩肥 91.734 - 12.10 = 79.634

牛 70.457 - 17.33 = 53.077

騎場ノ役畜労働賃

駒場ニ於ケル耕馬ノ使用日數ノ調査ハ不明ナレモ一兩年ノ經驗ニヨ
レハ一ケ年七八十日ニ過キサルカ如シ假リニ七十日トシ(牛ノ使用
殆ント經驗ナケレモ馬ト同日數トス)

$\frac{79634}{70} = 1.137$ 即チ馬一日ノ労働賃一圓拾三錢七厘
 $\frac{53077}{70} = 0.758$ 即チ牛一日ノ労働賃七拾五錢八厘

右ニ示セル駒場ノ例ハ以テ本邦農家ノ馬労働賃トナスニ適セス願フ
ニ農家ニ於テハ駒場ニ於テ論スルカ如キ良飼料ヲ供スルコトナク
又農業労働ノ外多少外役(駄賃取り)ニ使用スヘケレハ役畜ノ労働賃
金ハ遙カニ之ヨリ廉ナルヘシ

第四章 用畜種類及ヒ頭數ノ計算

用畜ノ種類及ヒ頭數ノ計算ハ役畜ニ係ルモノニ比スレハ極メテ複雑
ニシテ且ツ困難ノモノナリ

用畜ヲ飼フノ必要ハ左ノ四點ヨリ成立ス

- 一、農場所産ノ飼料ヲ利用スルノ必要
- 二、厩肥ヲ得ルノ必要
- 三、作物ヲ輪栽シテ地力ノ經濟的利用ヲ圖スノ必要
- 四、用畜飼育ヨリ生スル所得

今ワルダウ農場ニ例ヲ取リ算出法ヲ示サン

ワルダウ農場附近ノ狀況ヲ視テ農業組織如何ヲ参考セルニワルダウ
農場ニ於テハ一頭平均生体量八セントルノ牛百八十一頭ヲ飼養
シ得ベシト考察ス而シテ内四十頭ハ既ニ力畜ヲ以テ充タサル所ナ
ルガ故ニ殘百四十頭ハ悉ク用畜トナスヲ得ベシ於是百頭ヲ牛ト定
メ而シテ殘四十頭ノ牛ニ相當スベキ羊ヲ飼養スルコトニ定メタリ
要スルニ此農場ハ都市ヨリ遠隔ナル地ニ非ルヲ以テ牛乳ヲ販賣スル
ニ利アルカ故ニ乳牛ヲ飼養シ且所需ノ牛群ヲ完カラシムルニ足ル

ト子ルハ販賣ス
 其他放牧地及ヒ濕地ノ農場ニ附屬スルアルモ此等ノ土地ヨリ生スル
 モノハ農場附農夫ニ給與スルモノト見做シ之レヲ算外ニ置ク
 即チ飼料ノ合計ハ左ノ如シ

藁 一〇一二五セント子ル
 乾草 八五〇〇セント子ル
 蒸菜 七二〇〇セント子ル
 馬鈴薯 二〇〇〇セント子ル
 燕麥(一三二五シエツフェル) 六〇九五セント子ル
 而シテ先ツ此内ヨリ力畜所要ノ分ヲ扣除セサルベカラズ
 馬一ケ年ノ飼料及ヒ敷料ハ左ノ如シ

馬一ケ年ノ飼料及ヒ敷料

物名	一頭分	二十八頭分
燕麥	三六、五〇 <small>(セント子ル)</small>	一〇二二 <small>(セント子ル)</small>

乾草	三〇、五〇	八五四
藁	四八、二五	一三五一

牛一ケ年ノ飼料及ヒ敷料ハ左ノ如シ

物名	一頭分	十二頭分
乾草	六五、七〇	七八八、四〇
藁	五四、七五	六五七、〇〇
藁基油餅	三、六六	四三、九二

即チ力用牛馬所要額合計ハ乾草一六二八セント子ル、藁二〇〇八セント子ル、燕麥一〇二二セント子ル、油餅四四セント子ル、ニ當ル、然ルニ
 燕麥現在額ハ僅ニ六百〇九セントネルナル、ガ故ニ之レカ不足額四百十三セント子ル、ハ他ノ飼料ヲ以テ換用セザルベカラズ是ニ於テ
 カ先ツ所産ノ豌豆八百シエツフェル、即チ六百八十セントネル、ヲ以

テ之レニ充ツルノ見積ヲナシ而シテ燕麥ノ豌豆ニ於ケル滋養價值ハ0.84:1.38ニ當ルガ故ニ燕麥四百十三セントヲル、ハ豌豆二百五十二セントヲル、ニ恰當ス即チ此力畜所要ノ額ヲ扣除スルモ尙ホ四百二十八セントヲル、ノ豌豆ヲ剩スガ故ニ其内五十三セントヲ用畜用ト定ム用及ヒ支給物品用トシ殘額三百七十五セントヲ用畜用ト定ムベシ而シテ牛飼料ニ要スルノ油餅ハ他ヨリ購買スルヲ論ヲ埃タス以上所說セル力畜用ノモノヲ飼料用產出物惣額ヨリ扣除セハ用畜用トシテ贏ス所ノモノ左ノ如シ

- 乾 草 (8500—1628) = 六八七二セントヲル
- 藁 (10125—2008) = 八一七セントヲル
- 内二千セントヲルハ飼料用、殘額ハ敷料用 七二〇〇セントヲル
- 蒸 菜 二〇〇〇セントヲル
- 馬鈴薯 三三五セントヲル
- 豌豆

然ルニ此等ノ飼料ハ蛋白質ニ乏シキカ故ニ先ツ第一ニ油餅六百、セントヲルヲ購買シ此蛋白質ノ欠乏ヲ補フヲ決セサルベカラズ而シテ以上ノ飼料ハ七分ノ五(Grossvieh.百頭分)ハ牛ニ屬シ七分ノ一(Grossvieh.四十頭分)ハ羊ニ屬ス、今假リニ此額ヲ以テ前ニ述ベタル所ノ生体量八「セントヲル」ノ乳牛百頭、全六十四磅ノ羊五百頭ヲ飼養スルノ計算ヲ爲サン

ウオルフ氏ハ乳牛千斤体量一日ノ所要飼料ノ量ヲ左ノ如ク定メタリ (單位磅)

有機物全量	可 消 化 的			養 素 合 計	養 素 割 合
	蛋白質	炭水物	脂 肪		
二四	二五	一一五	〇、四	一五、四	一ニ付テハ五、四
即チ生体量八百「セントヲル」ノ一日所要額ハ (單位磅)	一九二〇	二一〇〇	一〇〇〇	三三二	
有機物全量	可消蛋白質	同炭水物	同脂 肪		

全上一ヶ年所要額ハ(單位セント子ル)

有機物全量	可消蛋白質	同炭水物	同脂肪
七〇〇八	七三〇	三六五〇	一一六八

然ルニ牛ニ對シテハ飼料殘額ノ七分ノ五ヲ充ツルコト、セルカ故ニ即チ乾草五千五百セント子ル、藁千五百セントネル、馬鈴薯二千セント子ル、蒸菜四千セント子ル、豌豆三百セントネル、油餅五百セントネルニ當ル

此諸品全量ハウオルフ氏ノ分析表ニ據レハ左ノ成分ヲ含有ス

(單位セント子ル)

物名	成分	可消化的養素			
		有機物全量	蛋白質	炭水物	脂肪
乾草	四三四五、〇	三四二、〇	二二七二、五	六〇、五	
豌豆	一二〇〇、〇	四三、五	五〇一、〇	七、五	

馬鈴薯	四八二、〇	四二、〇	四三六、〇	四、〇
蒸菜	四四八、〇	四四、〇	四〇〇、〇	四、〇
豌豆	二四九、九	六〇、六	一六三、二	五、一
油餅	四一〇、五	一二六、〇	一一九、〇	三八、五
合計	七二三五、四	六五七、一	三七九一、七	一一九、六

此諸數ヲ前述乳牛百頭一ヶ年所要額ト比較セバ有機物全量、炭水物、及ヒ脂肪ニ於テハ敢テ不足ヲ慙ルナキモ蛋白質ニ於テハ殆ト七十三セントネルヲ不足ヲ見ル而シテ養素割合ハ(脂肪一ニ付炭水物二、五ナルトキハ)一、〇、一ニ當ル然ルニ乳牛ニ於ケル此割合ハ一、五、四タラサルベカラザルモ此牛群ハ悉ク乳牛ニ非ズシテ犢ヲ雜ユルガ故ニ先ツ此一、〇、一ノ割合ヲ以テ其當ヲ得タルモノト看做テ可ナラン
今此牛飼料ヲ殘飼料全額ヨリ控除セバ左表ノ如シ

(單位セントネル)

物量	物名	乾草	藁	瓜哇薯	蕎麥	菜	豌豆	油	粕
全殘額		6872	3000	2000	7200		375	600	
牛要額		5500	1500	2000	4000		300	500	
差引殘		1372	1500	0	3200		75	100	

即チ此殘額ヲ以テ生体量三百二十セントネルノ羊ヲ飼ハザルベカラズ而シテ蕎麥ハ内千二百セントネルヲ特ニ豚ノ飼料ニ充ツベキガ故ニ羊ノ飼料トシテ二千セントネルヲ殘スノミ
ウオルフ氏ハ羊千斤体量ノ飼料量ヲ左ノ如ク定メタリ

一日(ボンド)	有機物全量	可消化的養素			養素割合
		蛋白質	炭水物	脂肪	
一日(ボンド)	二〇〇〇	一二二	一〇三三	〇二一〇	一・九
一ケ年(セントネル)	七三三〇	四三三八	三七五九	〇七三三	

即チ一ケ年三百二十セントネルノ羊ノ所要額左ノ如シ

(單位セントネル)

有機物全量	可消化蛋白質	可消化炭水物	可消化脂肪
二二三三六	一四〇	一二〇二	二二三三

然ルニ羊用ニ充テタル飼料全額及ヒ成分ハ左ノ如シ(單位セントネル)
(養素割合一・九)

乾草	藁	蕎麥	菜	豌豆	油粕	飼料全額	有機物全量	可消蛋白	可消炭	可消脂
二三七二	一〇八三	八	八五〇	五四一	三	一五〇〇	一二二五	二一〇	六〇六	〇
二〇〇〇	二二四〇	二二〇〇	二二〇〇	二〇〇〇	〇	一五〇〇	一二二五	二一〇	六〇六	〇
七五	六三二	一五	二二〇	二〇〇	〇	二〇〇〇	二二四〇	二二〇	二〇〇〇	〇
一〇〇	八二一	二五	二五三	二三五	五	二〇〇〇	二二四〇	二二〇	二〇〇〇	〇
二六七八	六	一六八	四一四	一〇七	三六	二六七八	六	一六八	四一四	一〇七

此故ニ飼料中ノ養素ハ所要ノ養素ニ比較スレハ殆ント二割ノ多量ヲ見ルガ故ニ三百八十五セントネルノ生体量ヲ養フニ足ルヘシ然レ此超過量ヲ以テ小羊ニ充ツヘク加之又實際ニ生スヘキ飼料取扱中ニ於ケル減失ヲ補フニ充ツルモノト看做シテ可ナラン即チ以上ノ計算ニヨリ此農場ニ於テハ牛百三十頭ト羊五百頭トヲ飼養シ得ラルベキヲ明カニ知了スルニ至レリ

以上講述セル所ハ先ツ用畜數ヲ概算シ而シテ之ガ當否ヲ評定セシモノナリ然レ尒尒尚ホ他ニ飼料産額ヨリ直接ノ用畜數ヲ評定スルノ法アリ而シテ此法ハ従前ハ乾草相當價值ニ據リ或ハ有機物全量ニ據リ評定セシモ輒近ニ及ヒ滋養素基ニヨリ立算スルニ至レリ

全養素成分ニ係ル養素基ニハ曩キニ述ヘタル如ク蛋五：脂肪五：炭水物一ヲ以テ比率ニ用キルモノトス

即チ先ツ各飼料ノ滋養素基ヲ算出シ且ツ養素割合又ハ蛋白質比例ト

モ云フヲ算出シ之ヲ基礎トシテ起算スルモノトス

今一農場ニ於テ滋養素五萬基ノ飼料アリテ此養素割合ハ一〇〇ナリト假定スヘシ今之ヨリ羊豫定數ノ需要額假リニ二萬基ヲ控除スルモ猶ホ三萬基ヲ剩スヘシ而シテ之カ養素モ亦一〇〇ナリトス今之ヲ以テ牛ヲ飼養セント欲セハ先ツ養素割合ヲ高メテ以テ牛ニ恰當セシメサルベカラス即チ所産ノ菽類ヲ以テ之レニ充ツルカ若シクハ油粕ヲ購買シテ之ヲ行ヒ而シテ後一頭ノ所要ノ滋養素基額ヲ以テ之ヲ除セハ牛ノ頭數ヲ得ヘシ

第五章 厩肥生産額ノ計算

略ホ厩肥ノ生産額ヲ知ラント欲セハ先ツ家畜ノ食シタル飼料中ノ乾物量ヲ算出シ之ヲ計算ノ基礎トシ糞中ノ乾物量ヲ算出スヘシ即チ飼料乾物量ニ百ヨリ有機物消化率ヲ引去リタルモノヲ乘シ尒尒

物質不消化率トシテ1%ヲ加へ之ヲ糞乾物量トナシ尿乾物量トシテ6%ヲ増量スヘシ即チ左ノ如シ

飼料	kg	乾物量%	全乾物量kg	百ヨリ消化率ヲ 控除セル乗率即% (不消化物)	糞乾物全量kg
乾草	一七八〇〇	八五、七	一五二五五	四〇、二	六一三二、五
クローバー 乾草	九五〇〇	八四、〇	七九八〇	四三、二	三四四七、四
小麥稈皮	八四〇〇	八五、七	七一九九	四八、〇	三四五五、五
蒸菜	六八六〇〇	一一、〇	八二三二	一一、三	一〇二二、五
燕麥	五五〇〇	八五、七	四七一三	三一、八	一四九八、七
油餅	三六〇〇	八八、七	三一六三	三四、五	一一〇一、六
小麥麩	三六〇〇	八六、九	三一二八	二七、七	八六六、五
合計			四九七〇〇		一七五一四、七

之ニ疊キニ述ヘタル一%及ヒ六%ヲ加へ又更ニ敷料乾物量ヲ加フル

モノトス

$$17514.7 + (17514.7 \times 0.07) + 11766.6 = 32760.3$$

糞乾物

而シテ此乾物量ヨリ厩肥ヲ算出セントスルニ當リテハ左ノ乗率ヲ用キヘシ

牛 四 羊 三 馬 三 豚 三七

今前ノ數ヲ以テ假リニ牛厩肥トナストキハ

$$32760.3 \times 4 = 131041.1\text{kg}$$

即チ十三萬千〇四十一「キログラム」ノ厩肥額トナル

第六章 無生器具ニ係ル計算

無生器具ナルモノハ其種類甚ダ多ク且ツ需要ノ數一定セサルモノナリ故ニ之ニ係ル計算ヲ行フカ如キハ極メテ至難ノ業トス然レトモ各種ノ器具ハ部類ヲ分ツトキハ之レカ計算ヲ容易ナラシムルヲ得

無生器具ニ係ル計算

ヘシ即チ

- 第一類 家具
 - 第二類 畜耕具、播種機械、收穫機械等及ヒ車具
 - 第三類 人力耕具類
 - 第四類 用畜用具
 - 第五類 羊豚用具
 - 第六類 納屋用具
 - 第七類 農舍用雜具
- 本邦農業ハ無生器具資本ヲ要スルコト割合ニ少ナシト雖モ其構造ハ極メテ粗雜ナルカ故ニ償却費ハ比較的高カラザルヲ得ス今左ニ齋藤助教授ヨリ得タル調査概算ヲ示サン(齋藤氏調査ノ内荷馬車牽具「フオーク」ヲ除ク)
- 第一類 調査ヲ欠ク

- 第二類 本邦普通農家ニテ農用役畜ヲ有セサルヲ以テ之ヲ欠ク
 - 第三類 五町步農家ニテ拾貳圓五拾錢
 - 一町步ニ付凡貳圓五拾錢 償却歩合凡三割
 - 第四類 欠
 - 第五類 欠
 - 第六類 五町步ニ付五圓
 - 一町步ニ付壹圓 償却歩合二割
 - 第七類 五町步ニ付五拾七圓五拾錢
 - 一町步ニ付拾壹圓五拾錢 償却歩合二割
 - 五町步ニ付合計七拾五圓
- 以上ノ計算ハハ先ツ東京附近農家ノ資本額ト見做スヲ得ベシ右ヲ平均スレハ左ノ如シ

耕具

二、五〇

一ヶ年償却費 凡八拾錢

平均	納屋用具	一、〇〇	同	同五拾錢
一町歩ニ付	農舍用具	一一、五〇	同	同貳圓卅錢
合計		一五、〇〇		三圓六拾錢

又予カ埼玉縣入間郡ニ於テ調査シタルハ右ト大ニ異ナルカ故ニ茲ニ之ヲ示ス(二町歩ノ小農ニシテ家畜ヲ飼ハス如此地方ニ於ケル調査ニ據レハ一家五人ノ農家ニシテ二町歩ノ農業勞働ヲナスニ十分ニシテ又此農地ニ頼リ農家ハ中等ノ生活ヲ營ミ得ルト云ヘリ即チ此地方ノ第四紀古層土ニ於テハ最小自活農場及最小自營農場ハ凡ソ二町歩ト做スヲ得ヘシ

二町歩ニ付	一町歩ニ付	償却歩合
第三類 拾圓	五圓	一割
内譯 鍬 三挺	七、五〇	唐鍬 一挺
		〇、五〇
九六鍬 一挺	一、五〇	鎌 五挺
		〇、五〇

武藏國ノ入間郡ノ例

第六類 凡八圓 四圓

四割

内譯 唐箕 一個	二、五〇	碓	一、〇〇	<small>償却歩合強キハ蕪ノ保存年限チ一ケ年トセルニヨル</small>
萬石篩	一、〇〇	蕪	六十枚	二、五〇
連枷 五本	〇、三〇	寄セ板三枚	〇、一五	
依繩	〇、五〇			

第七類 凡三拾貳圓 拾六圓 七分五厘

車 一輛	三、〇〇	杵臼	二、〇〇
熊手掃籠	〇、三六	鉈	二挺
			〇、五〇
鋸 一挺	一、〇〇	肥桶	二組
			一、五〇
樹 一組	一、五〇	衡	一挺
			一〇、〇〇
笊 四個	三、〇〇	溜桶	三個
			六、〇〇

其他小道具凡六圓

二町歩合計 五十圓 此一ケ年償却費金 六圓六拾錢

武藏國ニ於ケル無生農具ノ調査

即平均一町ニ付キ貳拾五圓 全

三圓三拾錢

又其他全所近傍農家ニテ農夫一名ニ對スル家具ハ左ノ如シ

蚊帳 壹圓

夜具蒲團 貳圓五拾錢

食具其他 壹圓

合計四圓五拾錢 此保存年限 十ケ年

右予ノ調査セル處ハ齋藤君ノ調査ニ係ルモノト著シルシキ差異アル

カ如シト雖モ予ノ調査ニ係ルモノ、内第六第七ノ二類ハ假令農場

ノ面積ヲ二三倍トナスモ著ルシキ増加ヲナスヲ要セサルカ故ニ此

二町ノ計算ヲ基トシ五町歩農場ニ改算スレハ左ノ如シ

第三類一町歩ニ付此五倍 五町歩ニ付 貳拾五圓

第六類唐箕萬石篩ヲ据置キ其他ヲ凡四倍トス 拾壹圓五拾錢

第七類車、杵、臼、杙、等ノ分ヲ据置キ其他ヲ三倍トス 三拾七圓五拾錢

之ニ農雇夫二名ニ對スル第一類資本 九圓

合計 五町歩ニ付 八拾三圓

五町歩合計ニ於テハ即チ齋藤君ノ調査ト大差ナキヲ以テ齋藤氏調査

十五圓予ノ調査一町歩平均拾六圓六拾錢東京附近農家一町歩ノ無生資本ハ凡ソ左ノ如

シト云フヲ得ヘシ

二町歩耕作小農 凡二拾五圓

五町歩耕作中農 凡拾五圓

即チ之ヲ概言スレバ東京附近中小農家ノ資本ハ一町歩ニ凡十五圓乃

至二拾五圓トス

農業評價學上編終

享之卷 農業評價學下編(土地評價)

第一章 土地評價の目的及ヒ方法

第一節 土地評價の目的

土地ハ農業要素中首位ヲ占ムルモノナルカ故ニ之レカ價格ノ評定ノ如キモ亦敢テ忽緒ニ付スベカラサルナリ然リ而シテ之レカ評價ノ必要ナルハ左ノ場合ニ臨ミ惹起セラル、モノトス

- 一、土地ノ賣買
- 二、土地分配(共有地分配及遺産分配)
- 三、土地交換
- 四、土地貸借
- 五、土地抵當金融
- 六、地租賦課
- 七、土地收用

土地評價の目的

土地評價法

第二節 土地評價法

土地評價法ニ種々ノ區別アリ、時期ノ如何ニ依テ行フノ評價法ニ二種アリ

甲、時價評價法

乙、金融評價法

甲ハ一時土地ノ價格ヲ評定スルノ法ニシテ乙ハ土地抵當金融等ニ際シ將來二三十年間ニ變動ヲ看サルベキ確實ナル地價ノ評定法ナリ又數筆ノ土地ヲ一財團トシテ評價スルノ法及ヒ每筆ニ評價スルノ法ノ別アリ(Gesamt tax & Einzeltaxe)前者ヲ聚合評價ト云ヒ後者ヲ單獨評價ト云フ

而シテ又土地ノ價格ヲ直接ニ評定スルノ法ト先ツ土地收益ヲ評定シ之レヲ資本ニ換算シテ地價ヲ評定スルノ法アリ前者ハ直接地價評價(Grund Taxe)ト云ヒ後者ヲ收益評價(Ertrags Taxe)ト云フ

第一、時價評價法及ヒ金融評價法

土地ノ價值及ヒ價格ハ絶ヘズ變動ヲ免レサルモノニシテ世ノ進趨ト俱ニ人口漸ク増殖シ隨テ地産物ニ係ルノ需要ヲ増加スルヲ以テ土地ノ價值及ヒ價格ハ之レニ伴フテ昂騰ヲ來スベキハ必然ノ勢ナリ而シテ土地ナルモノハ任意ニ増殖スル能ハサルモノナルニ因ルト將タ吾人ノ智識ノ漸ク増進スルニ隨ヒ一定地積ヨリ更ニ多額ノ收穫ヲ獲ルニ至ルトニ因リ之レカ價格ノ昂騰ハ人口増殖ノ割合ニ比スレハ特ニ著ルシキモノナリ

其他貨幣ノ購買力減少セバ土地ノ價格ハ昂騰スルモノナリ然レモ此昂騰ハ貨幣ノ購買力増加スルトキハ自カラ反對ノ結果ヲ來シ土地ノ價格ハ抵減スルヲ免カレズ
戰爭、社會ノ激變、販路ノ壅塞並貨幣、金融及ヒ企業心ノ闕乏、地租及農藝工業稅ノ増課等ハ渾テ地價ノ低減ヲ來スノ原因タリ

又某地ニ對シテハ耕耘施肥ノ粗ナルト地力ヲ吸耗スベキ性質アル作物ノ連作及ヒ天災洪水等ハ之レカ價格ヲ低減スル原因トナル
 總シテ土地賣買、土地貸借、土地分配、土地交換及ヒ土地收用ニ方リテ其土地ノ價格ガ將來ニ於テ昂騰スベキカ將タ低落スベキカヲ想像シテ價格ヲ評定スルガ如キハ謬レリ故ニ這般ノ場合ニ於テハ時價評定ヲ行ハサルベカラズ
 時價ノ評定トハ恰モ當時土地ノ有スル處ノ價格ヲ評定スルノ法ヲ云フ然レモ此法ヲ行フニ方リテモ亦將來幾年間ニ於テハ多少ノ低落ヲ見ルアルモ敢テ損害ヲ感セサルベキ價格ヲ定メサルベカラズ故ニ既往十年間ノ平均産額ト平均物價トヲ以テ計算ノ基礎トナスヲ可トス

又或ル場合ニ於テハ當時ノ價格ヲ評定スルコトナク幾十年ノ間ニ土地價格ノ低落スルアルモ之レカ影響ヲ被ムルコトナク而シテ不良ナルノ境遇ニ於テモ能ク損失ヲ受ケサル處ノ地價ヲ評定スルノ必要アリ之レヲ金融評價ト云ヒ土地低當金融及ヒ地租賦課ノ際ニ行フモノトス
 即チ債主ハ如何ナル境遇ニ於テモ能ク土地ノ有スヘキ價格ヲ知ラサルベカラサルモノニシテ假令該地ノ耕耘ニシテ粗雜ニ流レ且地力減耗的ノ耕種法ノ行ハル、コアルモ猶該地ノ有スベキ處ノ眞價ヲ認知スルヲ必要トス而シテ此價格ハ該地ノ低當流レトナリ之レガ結果トシテ不利益ナルノ境遇ニ於テ公賣處分ヲ受クルモ猶ホ其賣價以下ニ相當スルモノタラサルヘカラサルハ論ヲ俟タサルナリ

地租賦課ノ爲メノ評價ニ於テモ亦此法ニ據ラサルヘカラズ要スルニ地租賦課ニ於テハ假令農業者ハ土地使用ノ法ニ粗ニシテ且不良ナルノ境遇ニ於テモ猶能ク自己ノ營業ニ大ナル障害ヲ及ホスコトナク納稅シ得ルノ程度ヲ以テ之レヲ行ハサルヘカラサルヤ明カナリ

想フニ土地課税ノ苛酷ナルカ故ニ必要ナル土地改良ニダモ下スベ
キ資本ナキ程迄ニ地主ノ膏血ヲ絞收シ農業ノ發達ヲ妨クルカ如キ
ハ蓋シ國家繁榮ノ爲メ得策トナスベキ攸ニアラサルナリ
故ニ同一ナル土地ニ於ケル金融評價ハ時價評價ヨリ遙カニ低カラサ
ルヲ得ズゴルツハ時價評價額ヨリ四分一以上三分一以下ヲ減却セ
ルモノヲ以テ金融評價額トスベシト言ヘリ

第二、單獨評價及ヒ聚合評價

本邦ニ於テ普通ニ行ハル、ハ單獨評價ニシテ一筆限リ土地ノ評價ヲ
ナスモノナリ外國ニ於テハ時ニ農場附屬ノ土地ヲ一財團トシテ評
價スルノ必要アルコアリ此法ヲ聚合評價ト云フ此法ニ於テハ耕地
牧草地等相互ノ關係等ヲ鑑察シ農場全体ノ價格ヲ定ムルモノナリ
故ニ農場評價(Guts Taxe)トモ云フ而シテ主ニ農場ノ賣買及ヒ貸借ヲ
爲スニ方リ行フノ法ナリ

第三、直接地價評價及ヒ收益評價

土地評價ハ必ス其土地ヨリ生スル攸ノ收益ニ基キ之ニ相當スルノ資
本額ヲ定ムルカ或ハ他ニ比準ヲ取り直接ニ地價ヲ評定スルモノト
ス、即チ甲者ハ土地貸借及ヒ地租賦課ノ爲メニ行フノ法ニシテ乙者
ハ土地賣買、土地分配、土地交換、土地抵當金融及ヒ土地收用ニ際シテ
多ク行ハル、處トス而シテ土地貸借ニモ亦時ニ乙法ヲ行フコトア
リ

要スルニ收益評價ナルモノハ先ツ收穫額ヨリ生産費ヲ扣除セル殘額
即チ純收益ヲ以テ基トスルモノナレモ直接地價評價ハ單ニ近傍同
種類ノ土地ノ賣買價格ヲ基トシテ直接ニ當該土地ノ地價ヲ算出ス
ルモノナレハ其手段極メテ簡單ナルノ利アリ然レモ概ネ土地ノ真
ノ價值ヲ示スモノニ非ズシテ時ニ正確ヲ闕クノ憾アリ、即チ何レノ
法ニ於テモ然リト雖殊ニ此法ニ於テハ地位等級ノ査定(Bonifirung)ノ

當ヲ失セサルコトニ注意ヲ要ス

地位ノ
査定ノ

第一章 地位ノ査定 Bonifirung

土地評價ニ於テハ先ツ地位ヲ査定スルヲ以テ必要トス然リト雖モ現時ノ吾人ノ智識ニテハ單ニ土質ノ如何ノミニ依テ土地ノ價值ヲ定メ之カ地位ヲ付スルヲ能ハサルヲ識ラザルベカラズ

地位査定ノ基礎トナルヘキ土地ノ生産力ハ土質ノ外尙ホ數多ノ要素ノ支配ヲ受クルモノニシテ吾人ハ未ダ土地生産力ノ幾部ハ土質ニ其幾部ハ他ノ土地生産的要素ノ働作ニ歸スルモノタルヤヲ識ル能ハサルナリ

土地評價ハ地位ノ異ナル毎ニ行フトキハ必ズ正確ナルハ論ヲ俟タズト雖モ複雑ニ失スルヲ以テ先ツ幾多ノ標準地ヲ撰定シ是レニ位付ケヲナシ而シテ他ノ土地ハ皆此標準地ニ照合シテ之レカ所屬ノ等

土地ノ
分類法

級ヲ鑑別セサルベカラズ然レモ過多ノ標準地ヲ設クルトキハ亦複雑ニ失シ實用ニ適セサルノ虞アリ

地位等級ノ査定法ニ二種アリ甲ハ土地ノ自然的性質ニ據ルモノニシテ乙ハ之レカ生産力ニ據ルモノトス然レモ時ニ此二種ヲ併用スルコトアリ要スルニ土地評價ハ乙ヲ基トシ甲ヲ参照シ以テ甲乙二様ノ査定法ヲ並行スルヲ至當トス

生産力ニ據ルノ査定法ヲ經濟的地位査定法ト云フ或ハ收穫額或ハ純收益或ハ此兩者ヲ併用シテ地位査定ノ基礎トナス

土地分類ノ法ハ其種類極メテ多シ

甲、理化學的分類(乃チ土質ニ基ケルモノ)

イ、礦物及ヒ岩石ヲ基トセル法

ロ、化學的及ヒ理學的性質ニ基ケル法

ハ、土粒成分ヲ基トセル法

土地ノ分類

乙、經濟的分類

天 粗収益ニ基ケルモノ

イ、穀物收穫ヲ基トセル法

ロ、飼料作物收穫ヲ基トセル法

ハ、ライ麥價值ヲ以テ評定セル收穫ヲ基トセル法

ニ、自然生樹木及ヒ野草生育ノ狀況ヲ基トセル法

地 純収益ニ基ケルモノ

イ、ライ麥價值ヲ以テ評定セル純収益ヲ基トセル法

ロ、純収益金額ヲ基トセル法

丙、甲乙二法ヲ併合セル分類即チ複式分類法

以上三類ノ内單ニ土質ノミニ依ルモノ即チ甲ハ土性學的分類ナルカ

故ニ土地評價ヲ行フノ用ニ供スルニ適セス乙ハ此目的ニ適スルコ

ト勿論ナリト雖モ其粗収益タルト純収益タルトヲ問ハス單ニ収益

ノミニ依リテ分類ヲ行フハ亦不完全ノ觀ナキニ非ラス故ニ乙分類法ヲ基礎トシ甲分類法ヲ加味セルモノ即チ複式分類ヲ最モ至當トス

地位査定ヲ行フニ當リ分類標準愈多キトキハ査定モ亦自ラ密ナルヤ明ケシト雖モ此標準ノ數多キニ過クルトキハ亦査定業事ヲ複雑ナラシメ反テ實用ニ適セサルニ至ラシム

即チ査定標準ト爲スヘキ土地分類ハ宜シク左ノ條件ニ適合スル様ニ撰擇スヘシ

一、分類各標準ニ對シ容易ニ識別シ得ヘキ特徴ヲ指示スルコト

二、地區内何レノ土地ニ對シテモ適用シ得ヘキコト

三、過多ニ標準ヲ設ケサル様ニ注意シ複雑ニ過タルヲ避クヘキコト
収益ヲ以テ地位査定ノ基礎トナスニ際シテ或ハ粗収益ノミニ依ルモノアリ或ハ純収益ノミニ依ルモノアリ或ハ此兩者ヲ併用スルモノ

ア
テ一アハ土地ヲ十等ニ分チ各等級ニ就キ土質ヲ明ニシ之カ粗収益ヲ示シ更ニ之ヨリ改良三圃穀作組織農法ニ係ル生産費ヲ扣除シ純収益ヲ併示セリ

ブルツクモ亦土地ヲ十等ニ別チ各等級ニ就キ粗収益ヲ示セリト雖モ生産額ノ一定歩合ヲ以テ生産費ニ充テ且ツ地位ノ降ルニ從ヒ此歩合ヲ増加セリ假令ハ一等地ノ(イ)ニ於ケル生産費ヲ粗収益ノ五十%トナスハ其ノ(ロ)ニ對スルモノヲ五十一%トナシ十等地ニ至リテハ其ノ(イ)ニ於テハ六十五%トシ其ノ(ロ)ニ於テハ六十九%トナセリ右二氏ノ法ハ何レモ粗収益ト純収益トノ兩者ニ依リテ各等級ノ特徴ヲ定メタリ然ルニバブストノ如キハ單ニ粗収益ノミヲ用キテ土地ヲ十六等ニ分類セリ

尙ホ其他純収益ノミヲ用キテ分類スルノ法アリ即チ普國地租賦課ニ際シテ襲用セルノ法ニシテ一評價區ニ付キ純収益ノ多寡ニ基キ區内ノ地ヲ八等ニ區分セリ

本邦地租改正ノ際ニ於ケル地位査定ハ粗収益ニ依レルモノナレモ水旱損ノ有無耕耘ノ難易運輸ノ便否等ニ依リ大ニ斟酌スル所アリタリ今左ニ當時ノ報告書中ヨリ地位等級ノ査定ニ係ル項ヲ抄録ス地位等級調査ハ他日地價ヲ議定スルノ時ニ方リ之カ平準ヲ得ン爲メ先ツ各地ノ品格ヲ詮評シ其等級ヲ判別スルモノナリ耕地ノ等級ヲ組織スルハ初メ先ツ地形ノ便宜ニヨリ二十村或ハ三十村ヲ連結シ之ヲ組合村ト稱シ恰モ一村ノ如ク見做シ其中ニ就テ地位中等ニ居ルモノ一村ヲ撰拔シ之ヲ摸範村ト稱シ其村内ノ田畑ヲ別チ大約九等内外ニ區別スルヲ目的トナシ官吏其地ニ臨ミ區戶長及ヒ改租總代人及ヒ組合村々老農數名相會シ田畑一地一筆毎ニ

土地ノ肥瘠、水旱損ノ有無、耕耘ノ難易、運輸ノ便否等苟モ收穫ノ多寡ニ關係スルモノハ之ヲ推究シ輿論ニヨリテ其等位ヲ決定シ而後更ニ其組合村々ヲシテ之ニ摸倣セシメ甲村ノ何等地ハ摸範村ノ何等ニ當リ乙村ノ何等地ハ摸範村ノ何等ニ均シト順次之ヲ摸範村ニ對照比準シ一般ニ其等級ヲ畝杭ニ明記シ人ヲシテ之ヲ知ルニ易カラシム此クノ如クニシテ全管内幾多ノ組合已ニ整理ヲ告クルニ及ヒ更ニ又彼組合ト此組合トノ比準如何ヲ精査シ終ニ全管内ヲ通貫シ秩然遺憾ナキニ至ラシム又一村内一地一筆ノ等級ヲ調査スルハ全ク村民ノ協議ニ任セ其等級完結ノ後ニ至リ官ニ於テハ專ラ彼村ト此村ト地位ノ比準ヲ精査スルニ止ムルモノアリ地位ノ組織大低此二様ニ出テス其地ノ情勢ニヨリ取捨折衷シ歸スル所地位ノ平準ヲ得ルニアルノミ

耕地ノ地位查

耕地ノ地位査定ニ際シテ參照スヘキノ要項ハ左ノ如シ

定ニ參照スベキ要項

- | | | | | | | | | | |
|-------|-------|----|-----|-------|-------|-----------|----|-----------|-------|
| ム | ウ | バ | ン | ル | ビ | 氏 | ツ | ル | ゴ |
| 八、 | 七、 | 六、 | 五、 | 四、 | 三、 | 二、 | 一、 | 二、 | 一、 |
| 耕種ノ現狀 | 耕耘ノ難易 | 濕氣 | 吸收力 | 地層ノ構造 | 底土ノ土質 | 耕土及ヒ底土ノ厚薄 | 土質 | 有機質分ノ含量 | 耕土ノ厚薄 |
| | | | | | | | | 底土ノ質及ヒ地下水 | |
| | | | | | | | | 氣候、地形 | |

地位査定ノ參照條件

氏

- 九、地力ノ現狀
- 十、作物適生ニ係ル制限ノ有無
- 十一、土地改良ノ爲メ放下セラレタル資本
- 十二、地形、氣候等

此十二項ニ對シ各滿點十點ト定メ實地ヲ臨檢シテ點附ケナシ之カ合

點ヲ算出ス

一、土質	滿點 廿五
二、耕土ノ厚薄	十
三、底土	十五
四、有機分含量	五
五、傾斜	五
六、耕耘ノ成否	五
七、水ノ吸收力	十

八、位置	五
九、主作物	十
十、耕耘施肥ノ現狀	十
合計	百點

然レモ滿點ハ氣候ノ異ナルニ從ヒ増減スヘシト云ヘリ右ノ滿點數ハ
 温暖ニシテ乾燥ナル氣候ヲ有シ一ケ年平均温度攝氏十二度一ケ年
 雨量四百四十ミリメートルノ地ニ於ケルノ例ヲ示スニ過キス
 以上述ヘタル如クビルンバウム及ヒクラフトハ各要點ニ對シ附點ヲ
 爲シ以テ地位ノ良否ヲ示スヘシト云ヘリ然レモ附點ニヨリテ土地
 ノ良否ヲ定ムル法ハ決シテ合理的ノモノニアラサルカ故ニ此等ノ
 要點ハ單ニ地位ヲ比較スルニ際シ參考ト爲スニ止メ附點セサルヲ
 可トス今左ニ一農場ニ於ケル地位査定手續ノ概要ヲ示サン
 地位査定手續ノ第一着手ハ土地分類ノ標準ヲ定ムルニアリ即チ農場

全体ヲ通観シテ先ツ土質上著シク相異ナル地ヲ擇ミ土地生産高ニ關係アル各要項ヲ攻究シ其收益額ニ應シ凡ソ五等ヨリ少カラス十等ヨリ多カラサル等級ヲ設定ス

地位等級	表土	土質	厚サ	底土	主作物	全上産額	備考
一	腐植質ニ富ム壤土	二五乃至三〇	略ホ表土ト同質ニシテ排水宜シ	大小麥	大麥二 小麥四 石石	一等地ト異ナルノ點ハ腐植質ヲ含ムコト少ナキト表土ノ層薄キトニアリ農場内ノ凸所ヲ占	
二	一等地ト同シ但シ腐植質ヲ含ムコト少シ	二三乃至二五	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	全	大麥三石八斗 小麥一石九斗	四等地ト異ナルノ點ハ腐植質ノ含量少ナキト表土層ノ薄キトニアリ	
三	稍腐植質ニ富ム植質壤土	一八乃至二三	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	小麥	小麥一石八斗		
四	腐植質ニ富ム砂質壤土	二〇乃至二五	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	大麥	大麥三石六斗		
五	四等地ト同シ但シ腐植質ヲ含ムコト少シ	一八乃至二〇	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	大麥	大麥三石四斗		
六	壤質砂土	二〇乃至二三	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	大麥	大麥三石二斗		
七	埴質壤土	一八乃至二〇	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	小麥	小麥一石四斗	三等地ノ備考ニ同シ	
八	砂土	二〇乃至二三	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	大麥	大麥三石		
九	礫質砂土	一五乃至一八	略ホ表土ト同シ排水稍悪シ	大麥	大麥二石八斗		

(備考) 本例ハ主作物トシテ大小麥ノミヲ掲ケタレモ作物ノ種類ハ其地方ニ適生スルモノ、内重要ナル作物ヲ列記スルヲ要ス以上ノ標準ヲ定メタルハ農場内ノ土地ヲ悉ク此標準ニ照合シ適當ナル等級ヲ附スヘシ然レモ此場合ニ於テ二個ノ等級ノ中位ニアル土地ヲ發見スルハ其地積小ナルモノハ次位ノ相當階級ニ組ミ込ムヲ常トスレモ若シ其地積大ナルハ上位ノ等級ヲイ、ロ、ニ二分シ新ニ適合級ヲ設クルコトアリ

今茲ニ例ニ用キタル一農場ノ土地ヲ此標準ニ適合セルニ左ノ如シ

圃區番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合計
面積	三五、四	三六、三	三四、五	三五、〇	三六、二	三五、七	三四、四	三五、〇	三六、〇	三四、〇	三五二、五
一等地		一六、二				一五、七					三一、九
二等地	一〇、〇	一五、一				一〇、〇	一七、〇		三六、〇	一七、〇	一五二、〇
三等地	一五、四	五、〇	一四、五			一七、四					五二、三

地位査定

四等地						1300		1900
五等地		105				1150		1400
六等地						95		1150
七等地	1000	95						1150
八等地		150						1150
九等地								1150
								1000

享百

單位ハ反トス

此地積ハ二等地ト同シト雖凡表土稍淺ク收穫量劣ル故ニ三等地ニ

組込タリ

即チ此三十五町二反五畝ノ農場ハ左ノ地位ノ土地ヨリ成ル

- 一等地 三町一反九畝
- 二等地 十二町二反一畝
- 三等地 五町二反三畝

原野地及牧草地ノ地位査定

以上ハ畑農場ニ付其例ヲ示セルモノトス、田ニ於ケルノ方法モ其要領ニ至リテハ敢テ異ナルコトナカルヘキモ只標準ヲ設クルニアリ又土地ヲ之ニ照合スル方ハ灌水及ヒ排水ノ便否ヲ考ヘ且ツ水害アリヤ否ヤヲ參考スヘシ

原野地及ヒ牧草地ノ地位査定ハ極メテ簡單ナリ要スルニ原野ニ於テ等級ヲ定ムルハ單ニ艸産額及ヒ之カ品質ノ如何ニ據ルニ外ナラス

- 四等地 一町九反
 - 五等地 三町四反
 - 六等地 二町二反五畝
 - 七等地 二町九反五畝
 - 八等地 二町八反
 - 九等地 一町〇反二畝
- 計 三十五町二反五畝

原野ト牧草地ノ地位査定

シテ人爲的耕耘施肥ノ如キハ敢テ之ヲ行ハサルモノナレハナリ假令純収益ニ依リ地位等級ヲ定ムルノ場合ニ於テモ生産費ナルモノハ單ニ刈取費若シクハ放牧費ノ如キ極メテ簡單ナル項ナルカ故ニ之ヲ認定スルハ極メテ容易ナリ而シテ牧草地ノ原野ト異ナルノ點ハ灌水ノ便否如何ニヨリテ等級ニ等差アルコト是レナリ

放牧地ノ地位査定ハ前者ト同シ然レモ此土地利用法ニ在リテハ草ヲ刈リ採ラサルカ故ニ家畜一頭ヲ養フニ足ルノ面積ヨリ一反歩草量ヲ算出シ而シテ其品質ヲ參照シ等級ヲ付ス家畜一頭ヲ養フガ爲メノ面積ヨリ草量ヲ算出スルノ法ハ左ノ如シ

体量三百五十斤ノ牛ヲ百五十日間放牧セルニ五反歩ノ土地ヲ要シタリ而シテ之レカ草量ハ幾何ヲ要セルカ

今牛ハ体量千斤ニ付一日食量二十五斤乃至三十斤ノ乾物ヲ要スト假定スルルハ体量三百五十斤ノ牛ハ一日ニ付八、七五斤ノ乾物ヲ要ス

ヘシ今牧草乾物量ヲ二十%トナスルハ八、七五斤ノ乾物量ニ對スル生草量ハ四十三斤、七五トナル即チ百五十日間ノ延額ハ六千五百六十二斤、五トナル之ヲ五反歩ヲ以テ除セハ一反歩ノ生草量トシテ千三百十二斤、五ヲ得ヘシ

又或ル學者(コツペ)ハ草量ヲ算出セスシテ單ニ家畜ヲ養フニ足ルノ面積ニヨリ等級ヲ設クルヲ以テ宜シト言ヘリ即チ此法モ亦時ニ稱用セラル、モノトス

第二章 收益評價ニ據ル土地評價ノ方法

收益評價ニ據ル土地評價法ノ手續ハ其聚合的ナルト單獨的ナルニ拘ラス先ツ其土地ニ對シ最モ普通ニ行ヒ易キノ農法ヲ設定シ之カ經營ニ必要ナル營業要素ヲ評定シ次テ粗収益ヲ定メ必要ナル營業費ヲ算出シ次テ純収益ヲ算出シ之レニ基ツキ土地ノ價格ヲ評定スル

收益評價ニ據ル土地評價

享百四

モノトス但シ聚合的評價ヲ行フノ場合ニ於テハ凡ソ計算ヲ農場全
体ニ採リ單獨的評價ヲ行フ場合ニ於テハ單ニ其農地ヲ計算ノ基礎
ニ用井ルノ差アリ

農法ノ設定ハ土地評價ノ基礎タルカ故ニ勉メテ之ヲ正確ニナスヲ要
ス而シテ農法ノ如何ハ其地ノ經濟的状況等ニ著シキ關係ヲ有スル
モノナルカ故ニ之カ設定ニ先タチ農況調査ヲ行フノ必要アリ即チ
評價執行手續ヲ列叙スル左ノ如シ

- 一、農況調査
- 二、農法ノ設定
- 三、粗収益ノ評定
- 四、營業諸費ノ評定
- 五、純収益ノ評定
- 六、純収益ヨリ資本利子ヲ扣除シ餘ス處ハ土地ヨリ生スル純收

益
ト
ス

一、農況調査ノ事項ハ場合ニヨリ或ハ精ナラサルヘカラサルコトアリ
或ハ粗ニテ足ルコトアリ今左ニ普國地租改正掛員心得中ヨリ農況
調査ノ項目ヲ拔載ス

- 一、評價區ノ位置、廣袤、境界
- 二、地 形

- イ、平地ナルヤ山地ナルヤ
- ロ、山脉高丘カ區内ニアルヤ否ヤ
- ハ、地表ハ特ニ耕耘ヲ難カラシムルノ状態ヲ有スルヤ否
- ニ、河、川、湖、等アリヤ否
- ホ、沼澤アリヤ否
- ヘ、水利如何、洪水ノ有無

- 三、氣 候

普國地租改正掛員心得

- イ、地勢ノ氣候ニ於ケル關係
- ロ、風ノ方向、暴風ハ何レノ方向ヨリ來リ而シテ其被害ノ多少如何
- ハ、降雨、降雹
- ニ、氣候ノ植物ニ於ケル關係
- ホ、春秋農期ノ初始、播種期及ヒ收穫期等
- 四、土質
 - イ、土壤ノ組成
 - ロ、荒蕪地ノ有無
- 五、堤防、排水及ヒ灌水等ノ狀況
- 六、交通
 - イ、鐵道、水路
 - ロ、國道、縣道、里道ノ狀況

七、人口

- イ、市町村ニ於ケル人口及ヒ其面積ニ對スル割合
- ロ、市町村ノ數
- ハ、商工業、製造業、礦業ノ狀況、殊ニ其農業ト密接ノ關係アルモノハ詳細調査スヘシ
- ニ、生計ノ狀況、所得稅納者ノ數及ヒ稅額

八、物產

- (甲) 礦產物
- (乙) 地產物
 - イ、穀菽類
 - ロ、根菜類
 - ハ、蔬菜、果實
 - ニ、特用作物

ホ、木材

ハ、地産物ノ輸出入販路及ヒ仕入レ地

ト、地産物ノ市價

(丙) 畜産物

イ、家畜市町村ヲ各別ニ調査シ面積及ヒ人口ニ對スル歩合

ロ、家畜ノ種類

ハ、家畜ノ地方病

ニ、家畜ノ養法及ヒ利用法

ホ、畜産物ノ販路等

ヘ、家畜及ヒ畜産物ノ市價

九、土地分裂

イ、土地分裂ノ大小、土地所有者ノ數及ヒ當一人所有反別、共有

地ノ有無

各種ノ土地(田畑原野等)ノ面積

土地整理及ヒ共有地分配

農舍ノ農地ニ於ケルノ位置

十、農業

イ、普通ノ農業組織

ロ、農業労働ノ狀況

ハ、農業畜力ノ狀況

ニ、肥料施用ノ狀況

ホ、營林法

十一、土地ノ賣買、自作小作ノ狀況

二、以上ノ調査ヲ了ラハ即チ之ニ基ツキ評價ノ地ニ普通適スヘキ輪栽

三法ヲ定メ所要ノ資本及ヒ勞力ヲ評定スヘシ

三、右ノ調査ヲ了ラハ各作物ニ付キ二十ヶ年間ノ平年産額ヲ調査シ之ヲ有市價品及ヒ無市價品ニ區別シ各之レカ金額ヲ算出スヘシ

四、營業諸費トハ經營學ニ於テ講述セル如ク勞働賃、種子、肥料及ヒ諸入費ノ諸項ヨリ成ル第二項ノ調査ニ基ツキ之ヲ算出スヘシ

五、第三項ノ額ヨリ第四項ノ額ヲ扣除セルモノハ農業ノ純收益トス然ルニ吾人ハ今土地ニ係ル收益ヲ得ント欲スルモノナルカ故ニ更ニ進ンテ

六、第二項ノ調査ニ係ル資本ヨリ生スヘキ利子ヲ算出シ之ヲ農業純收益ヨリ扣除スヘシ即チ剩ス所ハ土地ヨリ生スヘキ純收益トス

斯ク評定セル收益ニ地價資本相當利率ヲ乘スレハ評定地價ヲ得ヘシ

例 單獨的評價法ヲ用フル場合

今七町歩ノ一農地アリ之カ土質ハ有機質分ニ富ムノ砂質壤土ニシテ耕土ハ深サ二十五Cmトス而シテ底土モ亦同質ニシテ通滲性ニ富ム

單獨的
評價法
ノ例

此農地ハ市場ヲ隔タル二十、キロメートルニシテ道路ハ大約三分ノ一ハ里道ニシテ三分ノ二ハ縣道ナリ而シテ「セントネル」ノ運搬費ハ穀物ニ於テハ三十片、瓜哇薯ニ於テハ四十片ニ當ル即チ諸作物「セントネル」ノ價格トシテ左ノ金額ヲ得(單位「マルク」)

物名	市價	運搬費	差引農家價格ニ於ケル價格
小麦	一〇、〇〇	〇、三〇	九、七〇
ライ麦	七、四一	〇、三〇	七、一一
大麦	六、五五	〇、三〇	六、二五
燕麥	六、二〇	〇、三〇	五、九〇
瓜哇薯	一、八〇	〇、四〇	一、四〇

而シテ「セントネル」ノ價格ヲ算出セルニ即チ左ノ如シ

小麦	一、〇四
ライ麦	一、〇七

單獨的評價法ノ例

大麥	一三二
燕麥	一三四

又勞働賃ヲ計算セルニ左ノ諸數ヲ得タリ

- 馬 一頭 一二一〇
- 男 一人 一三〇
- 女 一人 〇、七〇
- 小兒 一人 〇、七〇

此農場ニ相應スヘキ輪栽法ヲ調査セルニ即チ左ノ如シ

- 一、休 閑 二、ライ麥肥料ヲ施ス
- 三、瓜哇薯 四、大 麥
- 五、クローバー 六、小 麥(肥料ヲ施ス)
- 七、燕 麥

一町歩平年産額左ノ如シ(セントネル)

物 名	穀 物	稈	乾 草	根 菜
-----	-----	---	-----	-----

ライ	大	小	燕	瓜	ク	合
イ	麥	麥	麥	哇	ロ	計
麥	麥	麥	麥	薯	バ	計
三四	三一	二九	二八			
八〇	四五	六〇	五〇			二三五
						一〇〇
						一〇〇
						二四〇
						二四〇

然ルニ稈産額二百三十五、セントネルノ内百、セントネルヲ敷料ニ用キ
 殘百三十五、セントネル及ヒ乾艸全額ヲ飼料ニ用キルモノトセハ肥
 料産額ハ左ノ如シ

- 稈 一三五 × 八五% 全乾物量 一一四、七五、セントネル
- 乾 草 一〇〇 × 八五% 八五、〇〇ク
- 合 計 一九九、七五ク

單獨的評價法ノ例

享百十四

即チ此内ノ一半ハ肥料タリ(正確ナル計算ニ於テハ消化率ヲ用キテ計算スヘキモノナレモ略算法ニ於テハ乾物量ノ一半ヲ被消化率一半ヲ不消化率ト見做スヲ以テ普通トス)之ニ敷料乾物ヲ加フレハ

$$\frac{19975}{2} + 85 = 18487$$

即チ百八十四「セント」ヲ入分七厘ノ肥料乾物量ヲ得而シテ之ニ四ヲ乘スレハ肥料産額トシテ七百四十「セント」ヲ得ヘシ然ルニ肥料ヲ施スヘキノ地ハ第二區及ヒ第六區ニシテ各一町步此肥料用量千「セント」ナルカ故ニ更ニ二百六十「セント」不足ヲ告ク此不足ハ或ハ飼料ヲ購入スルカ或ハ肥料ヲ購入シ以テ補充セサルヘカラス

而シテ此農場ニ於テ勞力ヲ要スルコト左ノ如シ

第一區及ヒ第二區休閒(ライ麥)	
馬延日數	人延日數
	男
	女

第三區 (瓜哇薯)		第四區 (大麥)	
犁起シ三回	一二	犁起シ二回	八〇
ハロー三回	三	ハロー三回	三〇
壓地	〇、四	壓地	〇、四
肥料搬出	一二	播種	種
收納	二	收納	四
肥料散布	四、〇	種	種
收納	二、四	種	種
	四、〇		
	二、六		

單獨的評價法ノ例

享百十五

勞働畜力	二二五、六〇
全人力	一〇七、六〇
種子代	一七二、五二
脱稈賃	五八、七八
肥料(千「セント子ル」)	四三〇、〇〇
諸入費及ヒ營業資本ノ利子	四三七、九一
(諸入費歩割ノ内譯表ハゴルツノ四百九十八頁ニ在リ)	
合計	一四二二、四一

差引即チ土地ヨリ生スルノ純益トシテ三百三十「マルク」二十六片如斯三百三十「マルク」二十六片ヲ得而シテ今地價資本ハ四分ノ利ヲ生スルモノト假定セハ即チ全地積ノ地價トシテ

$$330.26 \times 25 = 8256.50 \text{ ヲ得ルシ}$$

今之ヲ七除セハ一町歩ノ地價ヲ得ヘシ

直接地價評價

第四章 直接地價評價

直接地價評價トハ豫メ收益如何ヲ算出セスシテ直接ニ地價ヲ評定スルノ法ナリ

此法ハ土地ノ交換價值ヲ評定スルノ用ヲナサスト雖モ評價手段ノ簡單ニシテ費用ヲ要スルコト少ナキカ故ニ略ホ其土地ノ有スル相當價格ヲ知ルヲ得ルヲ以テ足レリトスル所ノ金融評價ニハ稱用セラ

其手段

直接ニ地價ヲ評定スルニ三手段アリ

- 一、土地ノ賣買價格若シクハ貸借料金ニ據ルモノ
- 二、土地ノ自然的性質(土質及ヒ之カ生産力ニヨリ直接ニ評價ヲ下スモノ小區域ノ地ニ行フコトヲ得
- 三、地租賦課ノ基礎タル公定評價ニヨルモノ

本邦ニ於ケル公稱地價ハ其算出法ノ合理的ナラサルノミナラズ地方ニヨリ著ルシキ寛嚴アリシヲ以テ此法ニヨルノ評價ハ僅カニ一ケ國位ニ亘ルノ小區域ニ於テ行フコトヲ得ヘキモ博ク對照スルノ用ヲナハサルコト前者ニ均シク要スルニ本邦ニ於テ最モ普ク襲用ス得ヘキノ法ハ第一法ニシテ殊ニ小作料ノ多寡ニ基ツクモノヲ以テ可トスヘシ即チ小作米ノ石數ニ十ケ年平均米價ヲ乘シテ金額ヲ算出シ而シテ之ヨリ諸懸リヲ扣除シ之ヲ幾倍シテ土地評價ニ充ツルモノトス

第五章 本邦地租改正ノ際ニ於ケル土地評價法

地租改正法ニ據テ調査セル處ノ地價ハ土地ノ等級ヲ評定シ賦税ノ基礎トナスノ要アルモノニシテ現ニ賣買スル所ノ土地價格ヲ指スモノニ非サルコトハ當時ノ大藏卿松方正義ノ地租改正報告書ニ陳フ

收穫

ル所ナリ而シテ農地ニ在テハ地味ノ肥瘠土地ノ便否耕耘ノ難易等ヲ斟酌シテ其收穫ヲ査定シ以テ其地價ヲ算出セリ
蓋シ地價算出ノ基礎トセル所ハ收穫、穀價、利子及ヒ種肥料村費ノ四項トス

第一、收穫

收穫ノ調査、田方ハ全般ニ米ヲ用キ畑方ハ概ネ麥、大豆ヲ用キ其桑、茶、麻、藍等ヲ種藝スルモノハ其近傍米麥ヲ栽ウルモノ、利益ニ比準ス而シテ各地既往五ケ年間最モ豊凶不偏ノ平年ヲ以テ之カ標的トナシ達觀上ヨリ調査スルモノト一地上ヨリ調査スルモノトヲ對照シ以テ全管内ノ稈量ヲ定ム達觀上ノ調査ハ先ツ舊法稅率ノ輕重及ヒ檢見坪苜ノ歩合、小作米ノ多寡等ヲ調査シ一郡一區ヨリ全管區内ノ收穫ヲ求ムルモノナリ一地一筆ノ調査ハ已ニ査定セル地位等級ニ應シ其一等ハ若干、二等ハ若干ト逐次適實ノ收穫ヲ討究シ之ヲ一村一

郡ニ及ホシ又推シテ全管内ノ收穫ヲ求ムルモノナリ此ニ様ノ調査彼此相須テ取捨斟酌シ而シテ收穫後ノ額ヲ確定ス

穀價

第二、穀價

穀價ハ收穫米麥ノ量已ニ決定ノ後此價格ヲ以テ金ニ換ヘ地價ヲ算出スルカ爲メニ要スルモノニシテ假令已ニ收穫ノ權衡其宜シキヲ得ルモ穀價其當ヲ得サレハ地價平準ヲ得ル能ハス初メ地租改正ニ用キル所ノ米價ハ從來其地ニ於テ用キ來レル各所ノ相場ヲ推問シ之ヲ人民ヨリ開申スル所ノ價格ト照合シ其當否ヲ檢スヘキモノトセリ然レモ改租着手ノ前後ニヨリ用キル所ノ穀價年度ヲ異ニスレハ彼此ノ權衡ヲ失ス故ニ明治三年ヨリ以來五ヶ年間上中下米ヲ平均シ其平均時日ハ貢納石代相場ニ用キル時日ニ因ルヘキモノトセリ而シテ其相場ヲ提查セシ地ハ其管内ノ大小廣狹ニヨリ固ヨリ一定シ難シト雖モ凡ソ五六所乃至數十所常ニ米麥ノ賣買ヲ爲ス地ノ相

利子

第三、利子

場ヲ採リ此總平均額ヲ以テ一管内一樣ニ用キシモノアリ或ハ州郡ノ位置ニヨリ相場常ニ同シカラサルモノハ適宜其地ヲ區分シ數種ノ相場ヲ用キタルモノアリ而シテ既往五年ノ景況ヲ察スルニ明治三年ハ前年ノ凶歉ヲ承ケ穀價非常ノ騰貴ナリ加フルニ藩政中ハ輸出入ヲ拘束セシヨリ比隣甚シキ昂低等アリ五ヶ年平均ノ價格不適當ト視認スルモノアリ斯クノ如キハ適宜之ヲ斟酌セシモノアリ結局全國ヲ平均スレハ其一石ノ米價ハ四圓十八錢五厘弱、麥ハ一圓九十七錢八厘弱、大豆ハ三圓一錢五厘ナリ

利子ハ土地ノ收益ニ基ツキ其原價ヲ算出スルノ率トス大抵六分利ヲ以テ普通ノ程度ト定メ而シテ土地ノ景況ニヨリ増減伸縮シ七分利ヲ以テ其極度トス然リ而シテ運輸ノ便否等凡ソ利子ノ昂低ニ關スルモノハ已ニ地位ヲ評スル時ニ於テ之ヲ酌量スルヲ以テ利子ニ階

級ヲ設クルモノ少ナシト雖凡管内平均六分利ヲ目的トシ數等ノ利子ヲ用キタルモノアリ而シテ今回平均田六分一毛強畑ハ六分三毛強ニ歸着セリ

種肥料及村費

第四、種肥料及ヒ村費

種肥料及ヒ村費ハ全收穫ノ内諸費ヲ扣除シ純益ニヨリ地價ヲ算出スルタメ全般ニ此費額ヲ定ムルモノナリ即チ種肥料ハ年收穫ノ一割五分、村費ハ地租ノ三分ノ一トス

此法ニヨリ收穫、穀價、利子、種肥料及ヒ村費ヲ算出スルノ例左ノ如シ(明治六年七月二十八日大藏省達地方官心得書第十二章拔萃)

検査例

第一則

一、田一反歩

此收穫米一石六斗

代金四圓八拾錢

但シ一石ニ付代金三圓

内

金七拾二錢

種糶肥代一割五分引

殘金四圓八錢

内

金四拾錢八厘

地租三分一村入費引

金壹圓廿貳錢四厘

地租

小以金壹圓六拾錢貳厘

殘金貳圓四拾四錢八厘

但シ假ニ六分ノ利ト看做ス

此地價金四拾圓八拾錢

此百分ノ三

壹圓廿貳錢四厘

第二則

一、田一反歩

本邦地租改正當時ノ土地評價法

此收穫米一石六斗

此小作米一石八升八合

代金三圓貳拾六錢四厘

但一石ニ付代金三圓

内

金四拾錢八厘

地租三分一村入費引

金壹圓貳貳錢四厘

地租

小以金壹圓六拾三錢貳厘

殘金壹圓六拾三錢貳厘

但シ假ニ四分ノ利ト見做ス

此地價金四拾圓八拾錢

此百分ノ三壹圓貳拾貳錢四厘

地租算法

地租算法

收穫米代ノ内種肥代ヲ引キ去リタル殘數ヲ甲ト名ツケ(第二則ハ小作米代金ヲ直ニ甲)之ヲ實トシ一年間金利ノ歩合へ百ヲ乘シ稅率三ト村費ノ一

トヲ加へ法トス(譬へハ六歩利ナルカハ四)法ヲ以テ實ヲ除シ得タル所ノ數ヲ村入費トシ之ニ三ヲ乘シテ地租トス
自作ノ地ヲ檢スルハ第一則ヲ以テシ小作人ノ地ハ第二則ヲ以テ之ヲ正例ト定ム然レモ各地ノ習慣區別アレハ尙ホ變例ヲモ參酌シ此方法ノ行ハレ難キ地ハ特別ノ方法ヲ設ケ稟議スヘシ

利之卷

農業簿記

緒言

農業簿記ノ目的ハ一年度ノ終末ニ方リ資産ノ増減及ヒ各作業部ノ得失ヲ計算的ニ明示スルニアリ則チ能ク此目的ヲ達スルヲ得ルノ簿記法ハ農業上至大ノ關係ヲ有スルモノタルヤ疑ナシ

即チ簿記ノ要ヲ大略スレハ左ノ如シ

- 一、農業ニ放下セル各種ノ資本ニ對シ終始監督ヲ行フヲ得ル
- 二、管ニ農業全般ニ關スル損益ヲ鑑ルニ要アルノミナラス亦事業各部ニ就キ損益ヲ鑑察スルニ必要アル
- 三、以上ノ事項ニ基キ將來ニ於テ最モ收益多キ事業ノ發達ヲ圖リ更ニ又收益少ナキ事業ノ縮少ヲ圖リ以テ農業全般ニ涉ルノ收

單記法

益ノ増加ヲ圖ルヲ得ルヲ
 簿記ニ二法アリ一ヲ單記法(一ニ官廳簿)ト云ヒ一ヲ複記法(一ニ商業簿)ト云フ前者ハ單ニ金錢ノ出納ヲ整理スルニ適スルモノニシテ纔ニ年度未總勘定ノ時ニ至リ事業ノ全般ニ亘ルノ損益ヲ明ニスルコトヲ得而シテ其他此法ニ於テモ亦物品ノ收支ヲ監督スルヲ得ルモ事業ノ各部ニ於ケル損益ヲ觀察スル能ハサルノ憾アリ尤モ登記ノ法ハ簡單ナルヲ以テ複雑ニ涉ラサル事業ニ在テハ單記法ヲ適當トナス然リト雖モ倘シ事業ノ複雑ニ涉ルキニ方リ殊ニ其各作業部ニ係ル損益ヲ明カニセント欲セハ寧ロ記入ノ複雑ナル虞アルモ後者即チ複記法ヲ用フルノ優レルニ若カサルナリ

●複記法トハ各事業部ニ對シ原簿ヲ設ケ即チ原籍ニ於テ一取引ヲ貸方及ヒ借方ノ兩欄ニ記入スルノ法ナリ蓋シ此法ハ事業ノ各部毎ニ原簿ヲ有シ左側借方ニ於テ總テノ支出ヲ記入シ右側貸方ニ於テ總テノ收

複記法

記錄簿

記錄簿ノ分類

入ヲ記入スルモノナリ
 要スルニ農業ハ元之レ一ノ營業ナルガ故ニ歐洲各農場ニ於テ普通行ハル、所ノ法ハ普通商家ニ行フ處ノ複記法ナリ故ニ余ハ此法ニ就キ講述セントス

此法ヲ行フニ方リテハ穀粒、根菜、藁稈、稈屑、乾草、生草、等ノ收穫量、支出量及ヒ貯藏ニ際シテ生スル所ノ減失量ヲ正確ニ測定スルヲ以テ必要トナス

蓋シ帳簿ニ二類アリ一ハ記錄簿ト云ヒ一ハ通計簿記ト云フ

第一章 記錄簿

記錄簿ハ概テ簿記ニ屬スルモノニアラサルモ暫ク茲ニ置ク此帳簿ハ農場資産ヲ登記シ置クノ用ヲナス故ニ登記ノ材料ハ多ク原簿ヨリ採ルモノトス

記錄簿ハ三部ニ別チ以テ左ノ事項ヲ記錄シ置クモノトス

第一部 歴史的記事即チ農場ノ取得、占有權及ヒ用益權等ニ關スル事項、農場創立以來ノ歴史、前所有者、土地ノ賣買貸借ノ經歷、借地契約、土地臺帳ノ謄寫本、地租、境界、地圖等苟クモ農場ニ關ル權利義務ハ細大悉ク事項ヲ詳記シ置クヲ要ス

第二部 學術的記事則チ農場所在地ノ氣候、地質、土質、地位、等級水利等苟クモ學術ニ關スル各種ノ事項ヲ詳記シ置クヲ要ス

第三部 事業的記事即チ農場ノ區畫及其面積、農地ノ狀態、土地利用法、排水、灌水、土地改良、道路ノ交通、農業組織、收穫額、輪栽法等苟クモ農業施行ニ關スル各種ノ事項ヲ詳記シ置クヲ要ス

以上ノ記事ハ雷ニ材料ヲ稜ルニ隨ヒ記入シ置クヘキモノトス

第二章 通計簿記

通計簿記トハ普通ニ簿記ト云フモノニシテ則チ一會計年度ニ涉リ出入納計算ヲ記入スルコトヲ云フ而シテ二類ノ簿冊ヲ要ス

通計簿

日記簿

金錢出納簿

一、日記簿
二、原簿

第一類 日記簿 (Journal)

日記簿ハ各作業部ノ毎日ノ出納ヲ記入スルノ用ニ供ス之レガ決算ハ通例年度ノ終末ニ至リ行フモノトス

日記簿ノ數及ヒ調製式ハ一様ナラサルモ可成其數ヲ少クシテ且簡單ナル様式ヲ用ヒ繁雜ヲ避クルヲ尙ブ便チ左ニ其梗概及ヒ様式ヲ示サン

一、金錢出納簿

毎日ノ金錢出納ヲ記入スルモノトス其様式左ノ如シ

月 日	事 由	証書 番號	轉記原簿	出 金	入 金
一月十二日	農具鍛冶何吉へ	三	農具	〇二五〇	
一月十三日	麥代何屋ヨリ	五	穀		五三〇

大農場ニ於テハ一週間毎ニ原簿毎廉ノ合計ヲ算出シ週計出納簿ニ記

日記簿 金錢出納簿

利五

バター支出	搾乳	支	出	乾酪收入	乾酪	支	出	記事
賣拂用家計合計	賣拂用乾酪	豚用	家計合計	生乳製搾乳	賣	家計用	合計	
					生乳製搾乳	生乳製搾乳	生乳製搾乳	

家畜簿

三、家畜簿

家畜簿ハ牛馬豚羊等ニ分ツ然レモ僅ニ二三種ニ限ルトキハ一冊ニ取
纏メ記入スルコアリ(家禽ハ農業ノ一部ヲナサソルトキハ別ニ簿冊
ヲ置カス)

牛馬豚ヲ一簿ニ記入スルノ式

月日	事由	馬	牛	豚	記事
		牡	牝	幼	
		牝	牝	肥	
		駒	牝	胎	
		牡	牝	胎	
		牝	牝	胎	
		牝	牝	胎	
		牝	牝	胎	
		牝	牝	胎	
		牝	牝	胎	

出入ノ内何レカ墨色ヲ變スレハ分リヤスシ
牛馬豚等ヲ別式スルトキノ例(牛ノミヲ示ス)

無生器具簿

四、無生器具簿

無生器具簿ハ部類ニ分チ記入スルトキハ繁雜ヲ免カル、コヲ得而シ
テ通例左ノ數類ニ分ツ

(イ) 耕具ニ屬スルモノ

- 一、牛馬耕具及ヒ車類
- 二、機械類
- 三、手耕具
- 四、納屋用器具
- 五、牧場用具
- 六、園用器具

月日	原簿	増事由	牝	牝	牝	牝	代價	月日	原簿	減事由	牝	牝	牝	牝	代價
			牝	牝	牝	牝	円				牝	牝	牝	牝	円
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	
			牝	牝	牝	牝					牝	牝	牝	牝	

無生器具簿

- (ロ) 家計用具
 - 一、 寢具
 - 二、 家財
 - 三、 食器
- (ハ) 牽具
 - 一、 牛用
 - 二、 馬用
- (ニ) 畜舎ニ屬スルモノ
 - 一、 馬舎用具
 - 二、 牛舎用具
 - 三、 豚舎用具
 - 四、 羊舎用具
 - 五、 家禽舎用具

(ホ) 雑用ニ屬スルモノ

- 雑用器具
- 雑用機械

器具類ハ年度末ニ方リ必ス評價ヲ行ヒ以テ減價額ヲ記入スルモノナレト行フニ手數ヲ要スルコトアルトキハ毎年ノ計算ニ於テハ一定ノ歩合ヲ以テ元資償還額ニ充テ五年ノ後全部ヲ評價スルモ妨ケナシ概テ此法ヲ行フモノ多シ其様式ヲ示ス左ノ如シ

月日	品名	部類	何年一月一日現在	増	減	何年一月一日現品	前年比較増減
			個數	價格	個數	價格	個數
			價	格	格	價	格

五、 労働簿

大農場ニ於テハ労働簿ヲ農夫労働簿及ヒ役畜労働簿ニ分ツコトアレ

無生器具簿 労働簿

